

大学新入生における適応過程予測因の時代的変遷¹

— 入試制度変動期と定着期における適応過程の比較から —

Transition of Predictors of Adjustment Process in University Freshmen
— In Comparing the 1979-entrant Cohort with the 1984-entrant Cohort —

清 俊 夫² 豊 嶋 秋 彦³
細 川 徹⁴ 芳 野 晴 男⁵

(1986. 4. 30 受理)

- I 問題と方法
 - II 結果・考察(1) 1年次前半の適応過程
 - 1. 59年度新入生の適応過程の予測因
 - 2. 適応過程の予測因の変遷
 - III 結果・考察(2) 1年次後半の適応過程
 - 1. 59年度新入生の適応過程の予測因
 - 2. 適応過程の予測因の変遷
 - IV 要約と展望
- 付：資料

-
- 1. 本研究は昭和59～61年度文部省科学研究費一般C59510040の補助による研究プロジェクトの成果の一部であり、第26回日本社会心理学会(1985)において発表された。
 - 2. 教育学部心理学科教室(保健管理センター併任)
 - 3. 保健管理センター
 - 4. 東北大学医学部
 - 5. 教養部心理学教室

I 問題と方法

我々はこれまで、社会心理学的枠組にたつ質問紙調査によって、大学生の適応構造と適応過程を追跡的に、かつコホート分析法にのっとり分析し、報告してきた。コホートとしては、52年度入学生から55年度入学生までと59年度入学生、60年度入学生のあわせて6コホートを対象に、1年次から2年次、あるいは3・4年次まで追跡し、その各時点について、それまでの学生生活の諸領域へのかかわりを回顧させた後にあらわれる時・空間的な全体的適応感、即ち総括的適応感（total feeling of summarized adjustment；以下SAと略称）の規定因・予測因の構造が比較・考察されてきた。

その一環として、52年度入学生と54年度入学生についてSAの変容に関連する先行時点における関連要因（予測因）の大数的・統計的解明が試みられた（豊嶋ほか 1980, 1982, 1983. Toyoshima et al 1981）が、52年度入学生にみられた予測因と54年度入学生のそれとに共通性は乏しく、これは、国立大学入学試験制度改定直後の54年度入学生の1年次における全般的に良好な適応状況（豊嶋ほか 1981a）に基づくコホート差がその1因である、と考えられた（豊嶋ほか 1981b, 芳野ほか 1981, 清ほか 1981）。つまり、大学受験制度の変動に伴なう文化変容及びその所産として、54年度生の良好な適応状況がえられ、そのこととの関連で適応過程予測因にコホート差が見出されたと考えられる。

他方、昭和54年度の入試制度改定から5年を経過し、受験文化が定着し、かつ、昭和61年度にはじまる再改訂の論議と現実の変動に影響をうけていない時代である昭和59年度入学生の適応状況は、54年度生と比べ次のような特徴を示していた（豊嶋ほか 1985）。

進学進路決定過程においては職業指向・専攻適性重視・受験学力による規制が強まり、学部・学科満足感は向上、生き方の確実感も強まったものの深化や再吟味への意欲は低下をみせる。大学の学業・講義といったフォーマル局面については、かかわり意欲こそ強まったもののそれらは自我周近的なものにとどまり、インフォーマル局面に関しては、サークル活動そのものよりもそこでの対人関係に焦点が移行する一方で、大学での友人との対人関係それ自体は自我周辺化するなど、インフォーマル領域へのかかわり方が浅薄化している。また、全般に自我中核的活動をもたない層が増大し、それとの関連で将来展望のレベルで自我中核的活動をもとうとする期待・構えが強まっている。また、家族や高校期からの友人といった旧来の対人関係の自我中核化が進行している。

大学入試制度の変動とそれに伴なう受験文化の変容の渦中にあったコホートである54年度生と、定着～安定期にあったコホートである59年度生との間でこのような適応状況の差異が認められたことは、適応過程予測因にもコホート差が生じていることを予想させる。

そこで本論文は、59年度入学生の入学直後、7月時、1年次終了時の3回の調査の資料を用いて、以下の2つの目的に沿って考察し、解明することをめざす。即ち、第1の目的は、昭和59年度入学生を対象として、従来と同様、2調査時点間のSA段階（良好：A、中間：B、不良：C）の推移に注目して、先行時点の同じSA段階の者が後続時点でのSAを改善・維持・悪化させることに関連する先行時点における予測因とその関連構造（生活空間体制）をあきらかにすることである。第2の目的は、54年度入学生と59年度入学生の適応過程の予測因とその関連構造（生活空間体制）の

比較・対照を通して、入学試験制度変動期と定着期の適応過程の予測因の時代的変遷をさぐることである。

分析手続

まず、先行時点のSAのA, B, Cと現時点のSAのA, B, Cを組合せた9群(G1~G9)のSA変容類型(「適応過程」類型)を構成する。目的1のための分析は、54年度入学生と59年度入学生で共通に採用された質問紙調査項目¹⁾への反応を、G1~G3, G4~G6, G7~G9の内部でそれぞれ統計的に比較し、更に、G1からG9までの知見をまとめる形でなされた。7月時における総括的適応感の予測因、即ち、1年次前半の適応過程の予測因の分析のためには、入学直後の調査項目が分析された。調査項目は、表4および表5にみられるように、高校期の生活体制、進学進路決定過程、大学生活の様々な領域への評価・構え、教養部から卒業後までの様々な領域での生活にたいする予想・期待を問う31の5段階評定尺度項目と21の選択式または自由記述式項目から構成されている。また、1年次終了時のSAの予測因、即ち、1年次前半の適応過程の予測因の解明のためには、7月時の調査項目への反応が分析されるが、それは、表7および表8にみられるように、入学時から卒業後までの様々な領域に対する評価・構え、予想・期待を問う28の5段階評定尺度項目と15の選択式または自由記述式項目から構成されている。5段階評定項目については平均値の差の検定(t検定)が、また、選択式または自由記述式項目後者については度数の差の検定(χ^2 検定, $df=1$)がなされた。

目的2の分析のために、目的1の分析によって昭和59年度入学生の適応過程の予測因として抽出された反応と、既に我々が詳細に考察している昭和54年度入学生の予測因(豊嶋ほか 1982, 1983)との異同が検討された。その際、両年度間の異同は、表1に示した規準によって分類された。第一

表1 適応過程予測因の時代的変遷のパターン

変遷のパターン		年度	
		S54	S59
一致(変化なし)		+	+
変化あり	α . プラス方向への変遷	-	0
		0	+
		-	+
	β . マイナス方向への変遷	+	0
		0	-
		+	-

+: 後続時点のSAに正の関連性をもつ
 -: " 負 " "
 0: " 有意な関連性がない

は、両年度とも後続のSAに対して同方向の関連性が認められた反応であり、これは時代差をこえた一般的な予測因とみなしうる反応である。第二の α は、59年度になると後続のSAに対するネガティブな関連性(即ちマイナスの予測性)が消えたり、54年度にはマイナスの予測性をもっていたのに59年度になってプラスの予測性が現われたり、54年度には予測性をもたなかったのに59年度にはプラスの予測性をもつに至った反応である。これらをマイナスの予測性が消えプラスの予測性をもつようになった(なりつつある)反応群として一括した。これは、「結果・考察」においては予測機能の「プラス方向への変遷」として記述されることになる。第二の β は α とは逆方向の時代的変遷を示すものであって、プラスの予測性が消え、マイナスの予測性をもつようになった(なりつつある)反応群である。これらは、「結果・考察」においては予測機能の「マイナス方向への変遷」として記述されることになる。

分析対象

以下、結果・考察(1)では、Ⅰ—入学直後とⅡ—7月時の両調査で有効資料のえられた54年度入学

生476名，59年度入学生519名（それぞれ入学者の45.8%，47.1%）の調査Ⅰにおける反応が比較される。G1～G9の構成比は，表2にみられる通りであるが，54年度入学生に比べて59年度入学生は，入学直後も7月時も共に，より適応的になっている（それぞれ $\chi^2 = 14.66, 23.64$ 。いずれも $df = 2, p < .001$ ）。これは，入学直後のSA・Bと7月時のSA・Aが増加し，適応過程別では，悪化群（G2，G3，G5）の減少とAの維持群（G1）とBからの改善群（G4）の増加による。

表2 1年次前半（4月→7月）への適応過程類型

		4 月 時 S A			7 月 時 S A 段階別の計			
		A. 適 応	B. 中 間	C. 非 適 応				
7 月 時 S A	A. 適 応	G1	164 (57.1) 204 (73.4)**	G4	29 (31.9) 78 (49.1)**	G7	24 (30.8) 29 (35.8)	217 311
		G2	99 (34.5)** 63 (22.7)	G5	42 (46.2) 63 (39.6)	G8	27 (34.6) 25 (30.9)	168 151
	C. 非適応	G3	24 (8.4) ^o 12 (4.3)	G6	20 (22.0)* 18 (11.3)	G9	27 (34.6) 27 (33.3)	91 57
4 月 時 S A 段階別の計			287 (100) 279 (100)		91 (100) 159 (100)		78 (100) 81 (100)	476 519

- ・数字は度数。()内は4月時SA段階別計に対する%。
- ・上段は54生，下段は59生。
- ・G1～G9各群度数の年度間の増減を肩に示した。肩の^o・*は多い方に付した(χ^2 検定， $df=1$)。
 - $P < .10$ ，* $< .05$ ，** $< .01$ 。

結果・考察(2)では，Ⅱ-7月時とⅢ-1年次終了時の両調査で有効資料のえられた54年度入学生380名，59年度入学生471名（それぞれ入学者の36.5%，43.6%）の調査Ⅱにおける反応が比較される。G1～G9の構成比は表3の通りであるが，7月時には59年度入学生がより適応的になっており($\chi^2 = 14.96, df = 2, p < .001$)，1年次終了時ではその傾向は一層顕著になっている($\chi^2 = 25.50, df = 2, p < .001$)。このことは，59年度入学生で1年次末のSA・A群（G1，G4，G7）の比が増加し，G2，G3，G5，G6の比が減少していることによるものである。

表3 1年次後半（7月→2月）への適応過程類型

		7 月 時 S A			2 月 時 S A 段階別の計			
		A. 適 応	B. 中 間	C. 非 適 応				
2 月 時 S A	A. 適 応	G1	95 (52.2) 214 (74.3)**	G4	27 (19.0) 49 (37.7)**	G7	11 (19.6) 18 (34.0) ^o	133 281
		G2	70 (38.5)** 61 (21.2)	G5	85 (59.9) ^o 64 (49.2)	G8	24 (42.9) 16 (30.2)	179 141
	C. 非適応	G3	17 (9.3)* 13 (4.5)	G6	30 (21.1) ^o 17 (13.1)	G9	21 (37.5) 19 (35.8)	68 49
7 月 時 S A 段階別の計			182 (100) 288 (100)		142 (100) 130 (100)		56 (100) 53 (100)	380 471

- ・数字は度数。()内は7月時SA段階別計に対する%。

なお、結果・考察(1)(2)とも、比較結果の表示(表4・5・7・8)は両年度間での差の有無と差の方向性を示すにとどめてある。平均値・度数等の粗データは文末「資料」に一括した。

II 結果・考察(1) 1年次前半の適応過程

1. 59年度入学生の適応過程の予測因

イ. G1～G3について: 高校期でのクラブ活動や交友への強い関与がSA・Aの維持要因となる(表4 No.4,5)が、他方、表5の通りクラブに最も力を注いだ者はCに悪化しやすい。(以下、表4及び表5参照)。高校～受験期全体への高い満足感、Aの維持とCへの悪化の双方を生じ易い両義性を持つ。人生指針探索の構えと確立感、明確な進学目的(特に職業資格重視型)、現所属への強い満足感SA・Aの維持要因である。但し、学科・専攻への強い満足感や、'やりたい事がやれそう'との展望による現所属選択はSA・Cへの悪化を招く例も多く、入学直後の<大学生活>観や専攻観と現実とのギャップに基いてSAが悪化する層が存在することを示唆する。

入学後の生活体制については、自我中核的活動を持たなかったり、今後の全体的適応予想が弱い場合、SAは低下し易いが、交友・サークルへの強い関与意欲がSAの維持要因となる。しかし、サークル活動に最も力を入れる構えは、SAの悪化を生じ易い。他方、学業領域への関与の仕方とSAの関連は弱い。

表4 入学直後調査における反応の平均値比較
(五段階評定項目)

No	項 目	G1 ~ G3			G4 ~ G6			G7 ~ G9					
		G1 G2+3	G1 G2	G1 G3	G2 G3	G5 G6	G4 G6	G4 G5	G7+8 G9	G7 G9	G8 G9	G7 G8	
1 2 3 4 5 6 7 8 9	進学目的の明確度 受験準備 関学業自体 クラブ・クラス活動 交 友 度 人生指針の確立 遊 び・ 趣味 余 裕 感 満 足 感	(+) +	+										
		(+)		+		(+)	+					(+)	
				+			(+)						
		+	(+)	+		-						(-)	+
		(+) +	+				+	+	+	+			
						-							
			+		(-)								
								(+)					+
		+	+	(+)	-				+	+	(+)	(+)	
10 11 12	考 える 時 間 確 立 感 生 活 の 納 得 感			(+)		(-)							
		(+)	(+)										
		+	+						+	+		+	
13 14 15 16	大 学 学 部 学 科 転 所 属 意 向	+	+					(+)					
		(+)	(+)						-	-			
		+	(+)		(-)	(+)			-	-			
		+					+						
17 18	地 域 へ の 満 足 感 生 き が い・ 充 実 感	(+)	+		-	+				(+)			
		+	+	(+)			+						
19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	学 業 へ の 意 欲 対 期 待 感 講 義 通 応 予 想 出 席 意 欲 専 門 準 備 意 欲 対 教 官 交 流 意 欲 サークル関与意欲 友 人 獲 得 意 欲 積 極 度 対 家 族 交 流 意 欲 下 宿・ 寮 での 全 体 的 適 応 予 想 卒 後 道 路 明 確 度	+	+							(+)	+		
								(+)				(+)	
								(+)					
				(+)								+	
		(+)	+					+					
		(+)	(+)					(+)					
		+	(+)	(+)								(-)	+
							-	(+)				(-)	
+	(+)												
+	+	+	(+)		(+)	+		+					
							+	+					

注 1. 上段は54入, 下段は59入。
2. +はpositiveな反応ほど後続SAが良好。-はnegativeな反応ほど後続SAが不良。
(+)(-)は.05<P≤.10(t-test)。

以上のように、人生指針や進学目的の確立・自我中核的活動の存在にみるような自我同一性の形成や、大学生活におけるインフォーマルな領域への関与意欲がSAを維持させるものの、高校・大

表5 入学直後調査における反応の度数比較

項目・反応カテゴリー		G1 ~ G3				G4 ~ G6			G7 ~ G9			
		G1 G2+3	G1 G2	G1 G3	(G2) (G3)	G5 G6	(G4) (G6)	G4 G5	G7+8 G9	G7 G9	G8 G9	(G7) (G8)
出身地	東北の他県			<*								
	北海道						≍*					
	関東以西		<°									
住まい	自宅					<°	>°		<*	<*		
	下宿								>*	>***		>°
	寮							≍*				
	(下宿+アパート)					>°	>°					
現・浪別	現役		≍°									
高校期に最も力をいれたこと	クラブ・クラス活動			<°			≍°					
	遊び・趣味			<°					<°			
	なし								>°		>***	<*
やりたかったがやれなかった事	遊び・趣味								≍°	<*	<***	
	なし								>*	>°	>*	
やりたくなかったのにやらざるをえなかった事	受験準備				<°							
	学業											>°
なし						<*	<***		>°		>°	>°
入学したらやりかけたこと	なし	<***	<***									>°
大学進学目的	職業・資格	>°	>*				>*					
当学機	旧、1期						<*					
	家族の条件	>*	>*						>°			
	学力	<°	<°									
	職業資格								<***	<°	<°	
初学	志望専攻あり			<*	<*				<*	≍°		
	現所属に一致								>*		>°	
志部	異系								<*			
	動機									>°		
望学科	興味・適性									<***	<*	<*
	現所属に一致								≍°	<*		
	同系									>°		
	異系								<*			
動機	職業・資格								≍°	>°	>*	

学ともにクラブ・サークル活動を自我中核的に定位する構えはSAを悪化させやすく、また、学業などのフォーマルな領域のSAへの関連は弱い、と言えよう。

(選択式・自由記述式項目について)

項目・反応カテゴリー		G1 ~ G3				G4 ~ G6			G7 ~ G9				
		G1 G2+3	G1 G2	G1 G3	(G2) (G3)	G5 G6	(G4) (G6)	G4 G5	G7+8 G9	G7 G9	G8 G9	(G7) (G8)	
現所属選択動機	やりたい事がやれそう				∞ ○	>○						>*	
	学 力	>○					>○						
	興 味 ・ 適 性					<○						>*	
	職 業 ・ 資 格							>*	>○	>○		>*	
	家 から 近 い							>*					
	街 に ひ か れ て			<**	<*								
自我中核的 準拠集団	家 族					<○							
	高校期の友人							>**				>*	
	大学での友人	<○	<○								>*	<**	
	な し	<*	<○										
そこでの 中核的活動	学 業		<*						>○	>○	>○		
	サークル・寮活動		>○		<*								
	遊 び		>○										
	人生観・世界観 の 探						<○						
	とくになし	<*	<**			<○	<*						
今、最も 力をいれて いる事	交 友	>○	>*										
	人生観・読書	<○	<○										
	遊 び ・ 趣 味	<○			<○				<○				
今後力を 入れた 事	教養部 期	学 業				<*	<○	>*					
		クラブ・寮活動			<*	<*							
		交 友						>*					
	な し									>○			
	学部 移籍後	卒後への準備					<○	<*					
		学 業						>○				>*	<*
		交 友	>○	>○									
な し										>○			
卒 後 志 望 進 路	就 職							>**					
	未 定							<○					

- ・ 上段は54生，下段は59生。 ・ (+)は合成カテゴリー。
- ・ 比較対のひとつ以上で差の認められたカテゴリーのみ表示。
- ・ >…比較対の先のGで多いことを示す。<…後のGで多い。
- ・ ○ .05 < P ≤ .10, * P ≤ .05, ** P ≤ .01 (χ² df = 1)

ロ. G4～G6について：この群の適応過程の予測因については、高校期の学業や受験といったフォーマルな活動への強い関与と、*「やらざるをえない」*活動をもった事がSAにプラスの機能を果す。この背景には、外的・公的な課題への適応体験があると思われる。また、交友やサークル・クラブへの強い関与もSAにプラスに関与する。明確な卒業後進路観と就職指向もSAにプラスに機能するが、人生指針確立への強い関与はマイナスに機能し、学部期で最も力を注ぐ事として、卒業後の準備をあげる者もSAを低下させ易い。大学への進路決定に際して、旧一期校からの鞍替者ではない事、*「やりたい事がやれそう」*との展望による現所属選択、現所属の受容等がSAにプラスに機能している。

入学後の生活体制としては、講義への適応の自信は持つが、強い出席意欲や学業に最も力を注ぐ構えはもたない事、サークルや交友への強い意欲、それらの領域を自我中核的に定位する事、今後の全体的適応予想等が、SAにプラスに機能している。他方、家族との強い交流意欲はSAの改善と低下の双方を生じさせやすいが、家族への準拠が強い場合には、SAを低下させ易い。

以上のように、外的課題や所属枠の受容と適応への自信、高校ではフォーマル、インフォーマル双方の活動への積極的関与、大学ではインフォーマルな活動のみへの積極的構え、卒業後の志望進路を一応決めながらもその準備や人生指針の確立は猶予する構え、家族への距離をおいた準拠などが、この群のSAにプラスに機能している、と言えよう。

ハ. G7～G9について：この群の適応過程の予測因については、高校期に受験及び交友に強く関与し、最も力を注ぐ活動をもった事がSAの改善要因になり易い。しかし、*「やらざるをえない」*と認知した活動があったり、遊び・趣味に強く関与したり、強い不安全感をもつ場合には、SAは改善しにくい。

進路選択過程では、職業資格重視がSAの改善要因である。しかし、学部、学科・課程への強い満足感、かえってSAの改善を阻む要因となる。

入学後の生活体制としては、サークル・クラブの領域とSAとの関連は弱く、交友や家族との交流への強い意欲は、かえってSAの改善を阻む要因となる。また、遊びを自我中核的に定位することもSAの改善阻止要因とみられる。

以上のように、大学での対人交流への意欲や所属満足感といった要因は、G1～G3、G4～G6では7月時のSAの改善を予測させるものとして機能していたが、ここでは逆に、悪化を予測させるものとして機能するという点と、高校・大学を通じて、個人的な遊びや趣味に強く意味付与する構えがSAの悪化を予測させる要因として機能するという点とが、G7～G9に広くあてはまる特徴と言えよう。

なお、G1～G9の広い範囲にわたって、高校生生活における交友への強い構えがSAを改善させる機能を果している事が注目される。

2. 適応過程の予測因の変遷

両年度の予測因で予測方向が一致したものとしては、評定項目では、表4にみられるように、高校期におけるクラブ活動や交友への強い関与、高校～受験期への強い満足感、大学・学部・学科(課程)への強い満足感、生きがい・充実感、教養部の講義への弱い出席意欲があげられ、他に、表5

にみられるように、G2：G3の現所属選択動機としての「やりたい事がやれそう」、G4：G5の高校期で最も力を入れた事としてのクラブ活動がある。

これらをまとめると、G1～G3では、高校期のインフォーマルな活動への強い関与・強い所属満足感・充実感が、両年度生ともSA・Aの維持要因となるが、逆に、「やりたい事がやれそう」との展望による入学者は、両年度ともCに低下する場合が多い、と言えよう。G4～G6では、講義への強い意欲がSAを悪化させる機能を果し、逆に、高校・大学を通じたインフォーマルな活動への強い意欲がSAを改善させる機能を果す、と言えよう。G7～G9では、完全に一致した項目や反応は見出せなかった。

しかし、高校期～受験期への全体的満足感、全体的適応予想や、G7+8：G9の高校期の遊びでの不全感などでは、同じ比較対で逆方向の関連が認められ、また、54生ではG1～G9の広い範囲で予測因となっていた高校期におけるクラブ・クラス活動、生き方・人生指針を考える時間や大学での学業の自我中核的的定位などにおいては、59生ではSAとの関連性が弱まり、逆に、54生で関連の弱かった高校期の交友が広い範囲で関連性を強め、同じく、生き方・人生指針の確立感・それにてらした生活の納得感のG1～G3での関連性が明らかとなり、G7～G9で学部・学科（課程）満足感とSAとの負の関連が初めてあらわれる、といった年度間差が認められた。

次に、項目や反応の水準ではなく、生活領域や生活空間領域といった領域の水準でまとめて年度間の変化を比較すると、表6にあるように、まず、G1～G3では、その予測機能がプラス方向に変遷しているのは、卒業後志望職業や生き方の確立とサークルや交友といったインフォーマル領域への意欲であり、逆に、その機能がマイナス方向に変化してきているのは、専攻・適性・学力重視の進学先決定、学業への意欲、クラブや交友への傾注やその人格構造の中核部への定位、高校生活への強い満足感である。

このように、G1～G3では、比較的長い時間展望を持った進路展望や人生感探究への強い指向と確立感といった自我同一性の形成にかかわる要因の予測機能がプラス方向に変化し、逆に、専攻・適性・学力を主条件とする大学進学、学業、高校生活への適応感といった要因の予測機能はマイナス方向へ変化してきている。これに対して、サークル、クラブ、交友といったインフォーマルな領域については、これらの領域に強い意欲を持ち、大学での友人を自我構造の中核部に定位することの予測機能はプラス方向に変化したのが、それらに過度に傾注することの予測機能は逆にマイナス方向に変化するというような両方向への変化を同時に生じている。このことは、インフォーマル領域の予測機能の増大とその領域へのかかわり方の浅薄化とが同時に進行していることによると考えられる。即ち、インフォーマル領域へのかかわり意欲をもちつつも浅いかかわりにとどめようとすることで入学直後のSAの良好さが維持されていくのである。

G4～G6では、予測機能がプラス方向に変化したのは、明確な大学卒業後志望進路、楽観的な将来展望、大学生生活におけるクラブや交友への意欲・傾注であり、マイナス方向に変化したのは、学力重視の進学先決定、卒業後の志望職業や生き方探索への強い関心、所属満足感、学業に傾注する構え、高校時代の友人や家族といった「旧来の対人関係」を最もかけがえがないとすることである。

このように、G4～G6では、明確で明るい将来展望とインフォーマルな領域へのかかわり意欲の予測機能がプラス方向に変化し、逆に、学力重視の大学進学、自我同一性の形成、所属枠や学業と

いったフォーマルな領域、旧来の対人関係といった要因の予測機能はマイナス方向へ変化してきている。

G7～G9では、その機能がプラス方向に変化したのは、高校時代の友人による支え、不全感・拘

表6 「適応過程予測因」の異同

	7月時SAへの 関連性	領 域	A. G1 ~ G3
54 生・ 59 生間 の「予 測因」 の変遷	プラス方向 への変遷 $\left\{ \begin{array}{l} - \rightarrow + \\ - \rightarrow 0 \\ 0 \rightarrow + \end{array} \right\}$	進路観・生き方	① 職業・資格重視の大学進学。 ② 「今・力」が「人生観探索」。 「生き方を考える時間」の多さ、生き方「確立感」、生 き方に照らした「生活の納得感」。 (生き方探索への強い指向と確立感)
		フ ェ ー マ ル	
		インフォーマル	③ 大学でのサークル・交友への強い意欲。「大学での友人」 の自我中核的的定位。 [但し、サークル・交友への傾注は(+→0), (0→-).]
		生活全体・生活体制	
マイナス方向 への変遷	$\left\{ \begin{array}{l} + \rightarrow - \\ + \rightarrow 0 \\ 0 \rightarrow - \end{array} \right\}$	進路観・生き方	④ 専攻重視・適性重視の第一志望決定。 ⑤ 学力を規準とした進学進路決定過程。
		フ ェ ー マ ル	⑥ 大学学業・大学のフォーマル局面への強い意欲。
		インフォーマル	⑦ 「高・力」がクラブ・クラス活動。 大学でのサークル・寮活動への傾注・中核部定位。 ⑧ 「今・力」「学部・力」が交友。
		他	⑨ 高校生活への強い満足感。(+→-)
54・ 59 生 の 共 通 要 因	+ → +	過 去	⑩ 高でのクラブ・交友への強い関与度。 [但し、傾注は(0→-), (+→0).]
		現 在	⑪ 強い充実感。 ⑫ 強い所属満足感。
		未 来	
	- → -	過 去	⑬ 「やりたい事がやれそう」との見通しによる現所属選択。
		現 在	⑭ 「今・力」が個人的趣味・遊び。
		未 来	

束感のうすい高校生生活，高校時代から将来までにわたって傾注対象を限定しない構え，順調でない生活の受容であり，逆に，マイナス方向に変化したのは，個人的な遊びや趣味に強い関心をもつ高校生生活を送ること，卒業後志望進路の明確さ，所属満足感，大学における学業への意欲，家族

— 総括表 — (4月～7月)

B. G4 ~ G6	C. G7 ~ G9
① 卒業後志望進路像が明確（特に「就職」指向）。 [但し，進学進路決定過程での職業重視は， (十→0)，(0→一)。] ② 「やりたいことがやれそう」との見通しによる現 所属選択。	① 同 左。
③ 「高校・力」「学部・力」が「学業」。 [但し，「教養部・力」では，(十→一)。⑩] ④ 大学講義に『ついていける』見通し。	
⑤ 大学でのサークルの強い意欲。 「教養部・力」が交友。	② 高校での交友への強い関与。現在の「自我中核的 集団」が「高校期の友人」。 (高校期の交友からの支え) ③ 高での趣味・遊び領域における不全感。(一→十)
⑥ 大学生活での全体的適応への展望。 (②④と併わせ，「楽観的な将来展望」)	④ 高での「やれなかった事」「やらざるを……」が 「なし」。 (不全感・拘束感のうすい高校生活) ⑤ 「高・力」「教養部・力」「学部・力」が「なし」。 (傾注対象を限定しないこと) ⑥ SA・Cの生活の受容。
⑦ 職業資格重視の進学進路選択 過程。 } (職業資格への) 「学部・力」が「就職の準備」。 } 強い関心 ⑧ 同 左。 ⑨ 生き方探索への強い関与。	⑦ 卒業後進路像の明確さ。
⑩ 強い所属満足感。	⑧ 同 左。 ⑨ 第一志望学部・科への入学 } (学部・学科への) (十→一) } イメージと現実 のギャップ
⑪ 「教養部・力」が「学業」。(十→一)	⑩ 大学学業の強い意欲と中核部定位。
⑫ 「自我中核的集団」が「高 } (旧来の対人関係) 校期の友人」。 } への強い準拠。	⑪ 「高・力」が趣味・遊び。 (③と併わせ，「趣 味・遊びに関心 強い高校期」)
⑬ 家族への準拠。	⑫ 同 左。
⑭ 同 左。	⑬ 職業・資格重視の進学進路選択。
⑮ 同 左。	
⑯ 大学での友人獲得意欲(数の多さ)。	
⑰ 北海道出身者。	
⑱ 強い出席意欲。	

注 十→一，一→十の事項をゴシックで表示。

をかけがえのない人とするのであった。

このように、G7～G9では、高校生生活における対人関係や非適応感のなさ、現在の非適応的状況の受容、傾注対称の拡散といった要因の予測機能はプラス方向に変化し、逆に、遊びや趣味を中心とする高校生生活、将来の進路展望、所属枠や学業といったフォーマル領域、家族といった要因の予測機能はマイナス方向に変化している。ここでは、特に、傾注対象の拡散のもつ予測機能がプラス方向に変化してきていることが注目されよう。

以上のべてきたことをまとめてみると、大学における学業への意欲や傾注が全般に、7月時のSAにマイナスの機能を生ずるに至っており、逆に、高校生生活あるいは大学生活での交友・サークル・クラブへの関与といったインフォーマル領域のもつプラス機能が強まっている、と言えよう。

しかし、このインフォーマル領域のもつ機能の変遷は、詳細にみると、G1～G3では、それらに対する傾注がもつ機能はマイナス方向に推移しつつあるが、これに対して、G7～G9では高校時代の友人への強い準拠のもつ機能がプラス方向に推移している。また、G1～G3、G4～G6では、大学生活における交友、サークル・クラブの領域で変遷が見出されたのに対し、G7～G9では高校時代の友人でのみ変遷が見出された、といったような相違がみられた。

次に、卒業後の進路像や進学進路の選択過程における職業資格指向といった進路展望にかかわる要因もプラスあるいはマイナスの方向性を別にすれば、7月時SAとの関連性を変化させてきている。特に、進学進路選択過程にかかわる要因のうち、「やりたいことがやれそう」との見通しによる現所属選択はG4～G6、G7～G9の双方でプラスの方向に、学力を規準とした進路選択はG1～G3、G4～G6の双方でマイナスの方向に、職業資格指向の進路選択の要因は、G1～G3ではプラスの方向に、G4～G6ではマイナスの方向にそれぞれ変化している。

それ以外の要因については、強い所属満足感ならびに強い家族への準拠のもつ機能が、G4～G6、G7～G9の双方でマイナス方向の変遷をみせている。

以上が54、59両年度間の変遷であるが、次に、7月時のSAに関連する共通の要因をあげると、G1～G3では、高校時代における交友への強い関与、現在の生活の強い充実感、強い所属満足感がSAの改善に、「やりたい事がやれそう」との見通しによる現所属選択、現在の活動の焦点としての個人的遊び・趣味がSAの悪化に関連している。

G4～G6では、高校時代における交友への強い関与、現在の生活の強い充実感、大学での強い友人獲得意欲が、共通してポジティブに、逆に、北海道出身であることと強い出席意欲がネガティブにSAに関連している。

G7～G9では、職業資格重視の進学進路選択が7月時のSAに共通して関連する要因である。

このように、54～59の両年度に共通するSAの予測因があげられるが、このうち、高校時代における交友への強い関与、現在の生活の強い充実感が、G1～G3、G4～G6の双方で広く共通する予測因となっている。

Ⅲ 結果・考察(2) 1年次後半の適応過程

1. 59年度入学生の適応過程

イ. G1～G3について：生活空間領域として見た場合，SA・A（良水準）の維持—悪化要因としてG1～G3に共通に働いているのは，大学生活における交友，自治的活動（サークル・クラブ・クラス・自治会活動など），下宿・寮といったインフォーマルな色彩の強い3領域と，自我同一性の形成に直接関わる領域の，あわせて4領域である（以下，表7および表8参照）。

交友の領域では，交友に適応的，積極的であり，強い意欲を示し，自我中核的対人関係として自治的活動以外での大学の友人をあげる事はSAを維持させ易いが，対人関係に過度に集中する場合には，特にG1：G2+3におけるように，SAを悪化させる事にもなる。

サークル等については，関与意欲が強く，肯定的な構えや展望をもつほどSA・Aは維持され易く，下宿・寮については，寮に居住する事はSAを悪化させ易い。

また，教養部で力を入れる事として自治的活動をあげる事はSAを維持させるが，サークル・寮での対人関係を自我中核的な集団として選ぶ事は，逆に，SAを悪化させる事につながる。

自我同一性の形成については，生き方・人生指針が確立的であり，力を入れたい事の実現見込や全体の極応予想が肯定的であり，過去から未来への活動の焦点が不明瞭でない事などがSAを維持させ易くしている。

表7 7月時調査における反応の平均値比較
(五段階評定項目)

項目番号	項目名	G1 ~ G3			G4 ~ G6			G7 ~ G9				
		G1 G2+3	G1 G2	G1 G3	G2 G3	G5 G6	G4 G6	G4 G5	G7+8 G9	G7 G9	G8 G9	G7 G8
1	大 学			(+)		+	+		+	+	(+)	
2	所 属 学 部						(+)		(+)		(+)	
3	満 足 感 学 科 (課 程)			(+)			+		(+)			
4	転学(部科)志向の弱さ	+		+					+	(+)	(+)	
5	地 域 満 足 感	(+)		(+)			+		+	+		+
6	講義との関係	魅 力 度				+		-				
7		ついていける					(+)	+				
8		出 席 度	+									
9		専 門 準 備 度			(+)		+					
10	7	対 教 官 交 流 度					+					
11	月	サークル関与度										
12	へ 友 人 関 係	友 人 数	+	+			+					
13		適 応 感	+	+	(+)		+		+	+	+	
14	回 下 宿 ・ 寮 願	適 応 感										
15		交 流 度						+				
16		適 応 感			+	+						
17	対 家 族	交 流 度			+						(+)	
18	生 き 方	考 える 時 間									(-)	
19		確 立 感	(+)	(+)				(+)				
20	人 生 指 針	生 活 の 納 得 感										
21		生 き が い 充 実 感										
22	3 月 まで の 展 望	学 業 へ の 意 欲						+		(+)		
23		出 席 意 欲										
24		サークル関与意欲	+	+	+			(+)				
25		交 友 へ の 意 欲	+	+	+			(+)				
26		力 を 入 れ たい 事 の 実 現 見 込	(+)		+		+					
27	全 体 的 適 応 予 想	+	(+)						+	+	+	

注 1. 上段は54入，下段は59入。
2. +はpositiveな反応ほど後続SAが良好。-はnegativeな反応ほど後続SAが不良。
(+)(-)は.05<P≤.10(1-test)。

表8 7月時調査における反応の度数比較

項目・反応カテゴリー		G1 ~ G3				G4 ~ G6			G7 ~ G9			
		G1 G2+3	G1 G2	G1 G3	G2 G3	G5 G6	G4 G6	G4 G5	G7+8 G9	G7 G9	G8 G9	G7 G8
住まい	間借・アパート	∞ ^o					∞ ^o **					
	下宿			> ^o								
	寮	<*		∞ ^o *	< ^o		>**					
サークルへの参加		はい	> ^o	>*				>*	>*	>*		
友人の質	きがねない人あり						∞ ^o **	>*		> ^o		
	遊び仲間まで								< ^o			
	あったら話す人まで						<**					
	(親友+きがね)	> ^o		>*			<*	<*	> ^o		> ^o	
自我中核的準拠集団	家族							<*				
	高校期の友人					< ^o						
	大学での友人	>*	> ^o				< ^o					
	サークル・寮での友人	∞ ^o *	∞ ^o *								> ^o	
	尊敬する人・師								< ^o			
	なし											
そこでの中核的活動	サークル・寮活動	> ^o										
	趣味	< ^o		<*								
	人生観・世界観							>*			< ^o	
	対人関係そのもの	< ^o										
	特になし		< ^o					< ^o			>*	>*
これまで力を入れたこと	交友						> ^o					
	なし	∞ ^o *	<*					<*				
	人生観・読書			<*								
やりたかったが、やれなかったこと	学業					<**		>**				
	サークル・寮活動			< ^o								
	なし					>**		<**				
やりたくなかったのにやらざるをえなかった事	出席	< ^o	< ^o	< ^o								
	サークル・寮活動			< ^o								
	なし			>*	> ^o		< ^o				< ^o	

(選択式・自由記述式項目について)

項目・反応カテゴリー		G1 ~ G3				G4 ~ G6			G7 ~ G9			
		G1 G2+3	G1 G2	G1 G3	G2 G3	G5 G6	G4 G6	G4 G5	G7+8 G9	G7 G9	G8 G9	G7 G8
今もっとも力をいれている事	学業	>*	>*									
	サークル・寮活動	>*						>*				
	人生観・読書			<*	<**							
	なし	<*	<**									
SA, Aの理由	無答	<*	<*									
	欲求充足	<*	<*									
	プラス感情	>*	>°									
	不満・悩みなし	<*	<°	<**								
SA・Cの理由	大学の制度・実態							<*		<°		
SAの改善策	目標形成						<*					
	環境調整							>*				
	コミットメントの増大					<°	>*					
	わからない					>*	<*					
	無答						>°					
今後力を入れたいこと	教養部期	サークル・寮活動	>*									
		人生観・読書					<*	>*				
		遊び			<**	<**						
		なし	<*	<*				<*				
	学部期	単位・進級			<**			>°				
		学業					<°					
		なし	<*	<**		>*						
卒後志望進路	就職						>*		>°			
	未定	<*										

- ・上段は54生, 下段は59生。 ・(+)は合成カテゴリー。
- ・比較対のひとつ以上で差の認められたカテゴリーのみ表示。
- ・>…比較対の先のG. で多いことを示す。 <…後のG. で多い。
- ・° .05 < P ≤ .10, * P ≤ .05, ** P ≤ .01 (χ² df=1)

この他の領域としては、G2：G3をのぞいて、所属枠と学業の2領域が加わり、更に、G1：G3にかぎって家族の領域が加わる。このうち、所属枠については、大学・学科(課程)・地域への満足感が強く、転学(学部・学科)志向が弱い事が、また、学業については、授業に出席し、専門の準備をする事がSAを維持させ易い。但し、学部移籍後の力を入れる事として「出席・単位」をあげる事はSAを悪化させ易い。

以上のように、G1～G3では、交友、サークル・クラブ、下宿・寮といったインフォーマル領域、所属枠および学業のフォーマル領域、自我同一性の形成にかかわる領域の諸要因がSAの維持－悪化に関連している。このうち特に、インフォーマル領域にかかわる要因については、交友や自治的活動への肯定的構えはSAを維持させ易いが、しかしながら、そこでの対人関係そのものを過度に自我中核的に定位することはSAを悪化させ易く、また、学業についても、教養課程における授業への出席や専門の準備はSAを維持させ易いが、逆に、学部移籍後にまで「出席・単位」にこだわることはSAを悪化させ易いようである。

ロ. G4～G6について：SA・B(中間水準)改善－維持－悪化要因として共通に働いているのは、授業・学業と所属枠のフォーマルな2領域である。

授業・学業については、適応的であり、専門の準備をし、学業に意欲をもつことはSA・Bを改善させ易い。但し、講義に魅力を感じていたり、やりたかったができなかった事として学業をあげる事はSA・Bの改善と悪化の両方向に両面的に機能している。

大学・学部・学科(課程)・地域の各満足感を含む所属枠も2比較対に関連しており、G4～G6の共通の予測因といえよう。

これ以外では、下宿・寮は1つの比較対に関連しており、特に、SA・Bの改善要因として働いている。また、交友、サークル等の2領域が、G4：G6でのみ働いており、友人を求め、対人関係で適応的であり、交友やサークル・クラブ等の活動に意欲を示すか否かがSA・Bの改善－悪化を分化する要因となっている。更に、自我同一性の形成(「目標確立」)も1つの比較対に関連しており、人生観が確立的であることはSA・Bの維持－改善に関連し、逆に、「力を入れたいごと」として「読書・人生観の探究」をあげることはSA・Bの維持・悪化に関連している。

以上のように、G4～G6では、授業・学業と所属枠といったフォーマルな2領域が、主としてSA・Bの改善・維持・悪化に関連しているといえよう。

ハ. G7～G9について：SA・Cの改善要因として共通に関連しているのは、交友、所属枠、自我同一性の形成の3領域である。

交友では適応的であり、所属枠については大学・学部・学科(課程)・地域に満足し、転学(学部・学科)志向が弱い事がSA・Cを改善させ易くするようである。自我同一性にかかわる領域については、全体的適応予想の良さがSAに関連しているが、人生感の探究への過度の集中は、むしろ、SA・CのBへの改善を阻止する要因としてのみ機能しており、自我同一性の形成の要因は必ずしも全般的で強力な予測機能をもつ要因とはいえないようである。

その他の領域としては、尊敬する人や師との関係、学業への意欲、サークル、家族が1つの比較対のみで関連している。自我中核的人間関係として尊敬する人や師をあげる事は、SA・Cを改善させるべくするようであり、学業への意欲はSA・CのAへの改善にかかわっている。サークル等およ

び家族の2領域はG8：G9でのみ予測因として機能しており、サークルでの対人関係を自我中核的に定位することや家族との交流はSA・CをBに改善し易いようである。

以上のように、G7～G9では、授業・学業および所属枠のフォーマルな2領域が主として関連しているといえよう。

G1～G9までをまとめてみると、全群を通して共通の予測因として機能しているのは、所属枠の受容のフォーマルな1領域だけである。もう1つのフォーマル領域を構成する授業・学業は、G7～G9をのぞくG1～G6までの比較的広い予測因として機能している。インフォーマルな領域のうち、交友はG4～G6をのぞくG1～G3、G7～G9で共通の予測因として機能しており、サークル・クラブ、下宿・寮生活の2領域は、主としてG1～G3における予測因として機能している。また、自我同一性の形成にかかわる要因も、同様にG1～G3でのみ共通の予測因となっている。最後に、家族の要因の関連性は乏しく限定的であるが、特にSA・AのCへの悪化や、SA・CのBへの改善にかかわる要因として機能しているようである。

2. 適応過程予測因の変遷

双方の適応過程で予測方向の一致しているのは、評定項目では、転学（学部・学科）指向の弱さ、地域満足感、生き方・人生指針確立感、学業への意欲、サークル関与意欲、交友意欲、全体的適応予想の7項目であり、評定項目以外では、居住形態としての「間借・アパート」（G4：G6）および「寮」、友人の質としての「気がねなく何でも話せる友人」、これまでに力を入れたこととしての「なし」であった。一致はしているものの逆方向であるのは、評定項目では、講義への魅力度、力を入れたい事の実現見込みの2項目であり、評定項目以外では、居住形態としての「間借・アパート」（G1：G2+3）、自我中核的対人関係としての「サークル・寮」であった。

これらをまとめると、G1～G3では、所属枠の受容、交友、生き方・人生指針確立感、サークル関与意欲が、両年度生ともSA・Aと正に関連し、居住形態としての「寮」および活動の焦点の拡散が負に関連している。これに対して、居住形態としての「間借・アパート」と自我中核的対人関係としての「サークル・寮での友人」も両年度で関連しているが、前者は負から正に、後者は正から負にその関連性を変化させている。G4～G6では、交友、人生指針確立感、学業への意欲がSA・Bと正に関連し、居住形態としての「間借・アパート」が負に関連している。これに対して、講義への魅力度は、特にG4：G5で正から負にその関連性を変化させている。G7～G9では、全体的適応予想だけが両年度のSAに正に関連していた。

これらに対して、54生ではSAに関連していた講義への出席度、サークル関与度、下宿・寮適応感および交流度、生き方・人生指針にてらした生活の納得感、生きがい・充実感、出席意欲がその関連性を失い、逆に54生ではSAに関連をもたなかった学科（課程）満足感に関連が生じる、といった年度間差が認められた。

次に、項目や反応の水準ではなく、領域別にまとめて年度間の変化を比較すると、表9にみられるように、まず、G1～G3では、その予測機能がプラス方向に変化したのは、居住形態としての「間借・アパート」、交友での支えや交友への肯定的構え、家族における適応感、目標実現への展望

表9 「適応過程予測因」の異同

	2月時SAへの 関連性	領域	A. G1 ~ G3
54 生・ 59 生間の 「予測因」 の変遷	プラス方向 への変遷 - → + - → 0 0 → +	生 き 方	① 「間借・アパート」居住。(→+) ② 「今力」が人生観探索。
		フ ォ ー マ ル	
		インフォーマル	③ 「今力」・「中核的活動」・「今後・力」としてのサークル・寮活動。 ④ 深い友人の存在。今後の交友への意欲。 〔但し、対人関係を中核にすると(0→-)〕 ⑤ 家族との間の適応。
		全体的展望	⑥ 「力を入れたいこと」の実現見込。(→+) } (目標実現への展望) 「全体的適応予想」。
		生 活 体 制	
	マイナス方向 への変遷 + → - + → 0 0 → -	生 活 体 制	⑦ 「生き方を考える時間」の多さ。(生き方探索の構え) ⑧ 「生活の納得感」「生きがい・充実感」。(強すぎる生活享受) ⑨ 卒後志望進路が「未定」。
		フ ォ ー マ ル	⑩ 「今力」「今後力」「学部力」が「なし」。
		インフォーマル	⑪ 「今力」「これまでやらざるをえなかった事」が「学業」。 ⑫ サークルへの参加と高い関与度。 ⑬ サークル・寮集団を自我中核的集団とすること。(→-) ⑭ 下宿・寮での密な対人交流。
		全体的展望	
		生 き 方	⑮ 強い所属満足感。 ⑯ 生き方・人生指針の確立感。 ⑰ 多い友人、対友人適応感。(7月迄の広く適応的な交友領域)
54・ 59 生の 共通要因	+ → +	過 去 ~ 現 在	⑮ 強い所属満足感。 ⑯ 生き方・人生指針の確立感。 ⑰ 多い友人、対友人適応感。(7月迄の広く適応的な交友領域)
		未 来	⑱ 今後の、サークルへの関与意欲。
	- → -	過 去 ~ 現 在	⑲ 居住先としての寮。 ⑳ 「これまでの力」が「なし」。

注 +→-, -→+の事項をゴシックで表示。

であった。このうち、交友については、対人関係そのものに過度に集中することの予測機能はかえってマイナス方向に変化してきており、交友の予測機能の増大とその領域へのかかわり方の浅薄化の進行を示唆している。また、その予測機能がプラス方向に変化している「今力を入れていること」に対する人生観の探索はマイナス方向に変化した「生き方を考える時間」の多さや「生活の納得感」、
「生きがい・充実感」によって、また、現在から将来にかけての活動の焦点としてのサークル・寮活動はサークルへの参加や強い関与度、サークル・寮集団を自我中核的集団とすること等によってそれぞれ相殺されて、その予測機能をほぼ失う方向へ変化してきている。これに対して、その予測機能がマイナス方向に変化してきているのは、傾注対象・目標のないこと、義務的活動および活動の焦点としての授業・学業、下宿・寮での密な対人交流である。

以上のように、G1~G3では、交友、家族、目標実現展望の予測機能がプラス方向へ変化し、自

— 総括表 — (7月～2月)

B. G4 ~ G6	C. G7 ~ G9
	① 卒後志望進路が「就職」。
① 所属・地域への満足感。	② 同 左。 ③ SA・Cの理由としての「大学の制度・雰囲気」。
② 講義への適応感，教官との交流。	
③ 「これまでの力」の「交友」， 高校期や大学での友人への強い 準拠。 } (これまでの 友人への準 拠・支え)	④ 対友人適応感。深い友人の存在。 ⑤ 下宿・寮での適応感。
④ 寮居住。(+→-)	
⑤ 生き方・人生指針・世界観の探索に傾注。	
⑥ 卒後志望進路が「就職」。	
⑦ 自我中核的集団「なし」。	
	⑧ 講義への適応感。高い出席度。
⑧ サークル参加。	⑦ 同 左。
⑨ 家族を自我中核的集団とすること。	
	⑧ 「力を入れたいこと」の実現見込。
⑩ 同 左。	
⑪ 同 左。	
⑫ 深い友人の存在。 } (過・現・未を通した，) 今後の交友への意欲。 } 交友への関与。支え。	⑨ 今後の全体的な適応への展望。
⑬ 「間借・アパート」居住。	

我同一性の形成，授業・学業，サークル・クラス活動，下宿・寮といった領域の予測機能はマイナス方向へ変化した。

G4～G6では，2月時SAに対して，その予測機能の増大がみられた領域は，所属卒の受容と地域満足感，講義への満足感と教官との交流，これまでの友人への準拠・支えであり，逆に，減少のみられた領域は，居住形態としての寮，サークル参加，自我同一性の形成にかかわる生き方・人生指針探索への傾注・卒業後の進路としての就職・自我中核的集団のないこと，自我中核的集団としての家族であった。このように，G4～G6では，フォーマル領域と友人の予測機能の増大と，寮，サークル活動，家族，自我同一性の形成にかかわる領域の予測機能の減少がみられた。

G7～G9では，2月時SAに対して，その予測機能の増大がみられた領域は，卒業後の進路としての就職，所属卒の受容・地域満足感，非適応感の理由として「大学の制度・雰囲気」をあげない

こと、交友、下宿・寮での適応感であり、逆に、減少のみられた領域は、講義への出席度・適応感、サークル参加、目標実現展望であった。このように、G7～G9では、所属枠の受容、交友、進路展望の予測機能の増大と、講義、サークル、目標実現展望の予測機能の減少がみられた。

以上をまとめてみると、G1～G9の全てで交友の予測機能の増大が認められ、また、G1～G3をのぞくG4～G9までで所属枠の受容の予測機能の増大がみられた。これに対して、予測機能の減少がみられたのは、G1～G9までの広い範囲でのサークル、G1～G6までの自我同一性、下宿・寮での交流・居住であった。

こういった一貫した傾向に対して、学業の予測機能は、G4～G6では増大がみられたが、それ以外の群では減少がみられ、家族も、G1～G3では増加、G4～G6では減少、目標実現展望も、G1～G3では増大、G7～G9では減少と、群によって異なる方向の予測機能を示した。

以上のように、全体として、交友と所属枠の受容の予測機能の増大と、交友を除く大学生活のインフォーマルな領域および自我同一性の形成の予測機能の減少がみられた。また、学業、家族、目標実現展望は、群によって異なる方向での予測機能の変化があらわれている。

2月時のSAを予測させる54、59両年度に共通の要因としては、G1～G3では、所属枠の受容、自我同一性の確立観、友人の多さと適応感、サークルへの関与意欲がSA・Aの維持に関連し、居住形態としての寮と活動の焦点の拡散がその悪化に関連している。

G4～G6では、自我同一性の確立感、過去・現在・未来を通じた交友への関与・支えがSA・Bの改善に関連し、居住形態としての「間借・アパート」がその悪化に関連している。

G7～G9では、全体的な適応展望だけがSA・Cの改善の共通の予測因であった。

以上が54、59両年度に共通する2月時SAの予測因であるが、このうち、交友における適応と自我同一性の確立感がG1～G3、G4～G6の双方でみられる共通の予測因である。

IV 要約と展望

59年度入学生の適応過程の予測因としては、1年次前半（入学直後から7月時）では、高校期の交友がG1～G9に広く関連する予測因であり、ついで、G1～G6の所属枠の受容、大学での交友がポジティブに関連する。しかし後2者は、G7～G9ではネガティブに関連しており、また、サークル・クラブの領域もG4～G6でポジティブに関連するのをのぞけば、むしろネガティブに関連している。

1年次後半（7月時から1年次終了時）では、所属枠の受容と授業・学業のフォーマルな2領域がG1～G9の適応過程の予測因として広く関連しており、また交友も、G4～G6で関連が弱いのをのぞけばポジティブに関連している。しかし、その他のインフォーマル領域や自我同一性の形成の要因は、G1～G3でのみ関連する要因となっている。

適応過程予測因の変遷については、54年度から59年度にかけて交友の領域の予測機能の一貫した増大がみられたが、入学直後から7月時においてはその増大のみられたサークル・クラブの領域の予測機能は、7月時から1年次終了時では減少した。このことは、義務的な活動を伴わない交友一般の予測機能の増大を意味するのであろう。

家族の領域は、7月時から1年次終了時のG1～G3での増大をのぞけば、54年度から59年度にかけて一貫してその予測機能を減少させている。ここでは、7月時から1年次終了時のSA・Aの維持一悪化に対して家族領域の予測機能の増大がみられたことが、このG1～G3群の特質を示唆するものとして留意されるべきであろう。

フォーマルな領域については、7月時から1年次終了時のG4～G6での増大をのぞいて授業・学業の領域の予測機能の減少がみられ、所属の受容の予測機能は、入学直後から7月時では減少がみられたが、7月時から1年次終了時では逆に、その増大がみられた。現実の大学生生活を経たうえでの所属枠の受容の予測機能が増大したことを意味するのであろうし、教養部での学業は一部の群をのぞけばその予測機能を減少させたのである。これ以外では、7月時から1年次終了時における自我同一性の予測機能の減少がみられた。

以上、本報告では、予測因の時代的変遷に焦点をあてた大数的・統計的研究の成果を報告したが、これ以降、適応状況の時代的変動によっても影響されない通時代的な予測因の発見や、多変量解析による検討、さらに、同時に展開している事例研究法による研究成果の分析と大数的・統計的研究との比較・検討がなされていくことになろう。

註)

- 1) 59年度入学生への項目は54年度入学生へのそれよりも多くなっている。前者については豊嶋ほか(1982, 1983)、後者については豊嶋ほか(1985)の「付-質問紙」を参照されたい。

文 献

1. 清 俊夫・芳野晴男・豊嶋秋彦 1981, 大学生の適応過程に関する基礎的研究・第6報-(3)新入生における4月～2月の適応過程を中心に, 第45回日本心理学会発表論文集 456.
2. 豊嶋秋彦・清 俊夫・芳野晴男 1980, 大学新入生における適応状況と適応過程(Ⅱ)-共通出席者における適応の状況と適応の予測因をめぐって-, 弘前大学保健管理概要5・別冊, 1-41.
3. 同 上 1981a, 大学新入生における適応状況と適応過程(Ⅲ)-入試制度改訂に伴う適応の変容と同化の諸相-, 弘前大学保健管理概要5, 1-41.
4. 豊嶋秋彦・芳野晴男・清 俊夫 1981b, 大学生の適応過程に関する基礎的研究・第6報-(1)新入生における4月～7月の適応過程を中心に, 第45回日本心理学会発表論文集 454.
5. Toyoshima, A., Sei, T. and Yshino, H. 1981, A study on predictors of adjustment process in Japanese university freshman, *Tohoku Psychologica Folia* 40, 51-65.
6. 豊嶋秋彦・清 俊夫・芳野晴男 1982, 大学新入生における適応状況と適応過程(Ⅳ)-入試制度改訂後における4月から7月・2月に至る適応過程の予測因-, 弘前大学保健管理概要6, 1-50.
7. 豊嶋秋彦・芳野晴男・清 俊夫 1983, 大学新入生における適応状況と適応過程の予測因-入試制度改訂後における7月から2月に至る適応過程の予測因-, 弘前大学保健管理概要7, 1-41.
8. 豊嶋秋彦・芳野晴男・清 俊夫・細川 徹 1985, 大学新入生における人格適応の変遷と大学教育・学生相談の課題; 社会心理学的接近, 弘前大学保健管理概要8(2)・9合併号, 1-25.
9. 芳野晴男・清 俊夫・豊嶋秋彦 1981, 大学生の適応過程に関する基礎的研究・第6報-(2)新入生における7月～2月の適応過程を中心に, 第45回日本心理学会発表論文集 455.

項目番号	項目名		G1 ~ G3													
			G1			G2+3			G2			G3				
			n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD		
1	高校 期への 回顧	進学目的の明確度	161	1.97	1.03	122	2.21	1.05	98	2.18	1.05	24	2.33	1.00		
2		関 与 の 度	受験	164	2.50	1.00	123	2.72	1.06	99	2.65	1.04	24	3.00	1.10	
3			学業自体	164	2.53	.85	123	2.71	.92	99	2.65	.90	24	2.91	.97	
4			クラブ・クラス活動	162	2.62	1.34	123	2.98	1.29	99	2.91	1.26	24	3.25	1.39	
5			交友	164	2.11	.87	123	2.31	.85	99	2.28	.80	24	2.41	1.01	
6			人生指針	164	2.87	.99	123	2.89	1.08	99	2.92	1.03	24	2.75	1.26	
7			遊び・趣味	162	2.56	.95	123	2.75	1.00	99	2.82	.96	24	2.41	1.06	
8			余裕感	164	2.45	1.01	123	2.58	1.08	99	2.61	1.05	24	2.41	1.17	
9		満足感	163	2.36	1.07	123	2.71	1.00	99	2.68	.99	24	2.79	1.02		
10	生き方 ・ 人生指針	考える時間	164	2.56	1.02	123	2.69	1.08	99	2.72	1.03	24	2.54	1.25		
11		確立感	164	3.26	1.00	123	3.33	1.11	99	3.38	1.03	24	3.12	1.36		
12		生活の納得感	44	2.09	1.00	38	2.63	.85	28	2.64	.87	10	2.60	.84		
13	所属 満足感	大学	164	2.12	.87	123	2.40	.90	99	2.43	.89	24	2.25	.94		
14		学部	162	1.96	.88	123	2.17	1.06	99	2.18	1.06	24	2.12	1.07		
15		学科	160	2.16	.99	117	2.43	1.70	96	2.42	1.11	21	2.42	.87		
16		転所属志向	164	1.83	1.05	123	1.93	1.20	99	1.99	1.23	24	1.66	1.00		
17	地域満足感		163	2.63	1.01	122	2.66	.83	98	2.70	.78	24	2.45	.97		
18	生きがい・充実感		160	2.21	.85	119	2.54	.93	96	2.53	.91	23	2.56	.99		
19	教養 部 生 活 の 予 想	フォー マル	学業への意欲	163	1.64	.65	123	1.89	.85	99	1.93	.87	24	1.70	.69	
20			対 講 義	期待感	164	2.72	.85	123	2.86	.99	99	2.82	1.01	24	3.00	.88
21				適応予想	163	2.53	.77	123	2.65	.81	99	2.66	.82	24	2.58	.77
22				出席意欲	164	1.53	.64	123	1.53	.75	99	1.54	.77	24	1.45	.65
23				専門準備意欲	161	2.41	.99	122	2.36	1.01	98	2.35	1.04	24	2.37	.82
24		対教官交流意欲	164	2.21	.80	123	2.38	.94	99	2.40	.93	24	2.29	.95		
25		イン フォ ーマ ル	サークル関与意欲	163	2.18	1.09	123	2.38	1.12	99	2.35	1.11	24	2.50	1.14	
26			友人獲得 意欲	数	164	1.62	.84	123	1.72	.98	99	1.67	.96	24	1.91	1.01
27				積極度	164	1.84	.87	123	1.91	.97	99	1.84	.98	24	2.16	.86
28	対家族交流意欲		164	2.00	.84	123	2.11	.89	99	2.10	.87	24	2.16	.96		
29	下宿・寮での "	122	1.84	.89	90	1.97	.76	73	2.01	.77	17	1.76	.66			
30	全体的適応予想		164	2.09	.54	123	2.34	.54	99	2.39	.53	24	2.12	.53		
31	卒後進路明確度		164	2.22	1.16	123	2.35	1.25	99	2.35	1.21	24	2.33	1.43		

注) 高得点ほど否定的反応を示す。付表1-2も同じ。

(五段階評定項目) — 昭和54年度入学生

G4 ~ G6									G7 ~ G9											
G4			G5			G6			G7			G8			G7+8			G9		
n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD
29	2.06	.99	41	2.17	1.11	18	2.44	1.29	24	2.29	1.04	27	1.81	1.00	51	2.04	1.04	26	2.19	1.09
29	2.58	.94	42	2.92	.92	19	2.63	.95	24	2.91	1.21	26	3.15	1.15	50	3.04	1.18	27	2.74	.85
29	2.62	.94	41	2.87	.95	17	2.94	1.19	24	2.95	1.04	27	2.81	1.21	51	2.88	1.13	27	2.77	.84
29	2.86	1.55	42	3.04	1.27	18	2.66	1.18	24	2.75	1.51	27	3.59	1.39	51	3.20	1.50	27	2.96	1.19
29	2.10	.93	42	2.54	.83	18	2.27	.82	24	2.12	.99	26	2.23	1.21	50	2.18	1.10	26	2.34	.97
29	2.44	.78	42	2.76	.98	19	2.63	1.01	24	2.87	1.32	26	2.61	1.06	50	2.74	1.19	27	2.85	.98
29	2.55	1.05	42	2.78	.87	19	2.63	1.06	24	2.83	1.23	27	2.88	1.15	50	2.86	1.18	27	2.59	.88
29	2.65	1.11	41	2.82	1.11	20	2.60	1.04	24	2.25	1.18	27	2.96	1.22	51	2.63	1.25	27	2.59	1.08
29	2.79	1.26	42	2.90	1.12	20	3.00	1.21	24	2.41	1.24	27	2.51	1.25	51	2.47	1.24	27	3.14	1.32
28	2.53	.88	42	2.69	.95	20	2.20	.89	24	2.62	1.27	27	2.37	1.14	51	2.49	1.21	27	2.74	1.05
29	3.00	1.10	42	3.14	1.13	20	3.10	.91	24	3.45	1.14	27	3.33	1.30	51	3.39	1.22	26	3.84	1.31
13	3.00	.81	18	3.16	.70	7	3.14	.69	5	4.20	1.30	9	3.72	1.48	14	3.93	1.39	10	3.50	1.08
29	2.44	.94	42	2.81	.80	20	2.60	1.18	24	2.91	1.06	27	2.96	1.09	51	2.94	1.07	27	2.85	.94
29	2.37	.97	42	2.14	.92	20	2.55	1.27	24	2.25	1.03	27	2.18	1.11	51	2.22	1.06	27	2.44	1.01
29	2.55	1.05	39	2.41	1.06	20	3.00	1.33	23	2.39	1.15	25	2.32	.94	48	2.35	1.04	24	2.75	1.18
29	2.20	1.14	42	2.19	1.04	20	2.30	1.21	24	2.25	1.42	26	2.11	1.30	50	2.18	1.35	27	2.44	1.22
29	2.89	1.01	42	2.69	.84	20	3.20	.89	24	2.95	1.23	26	3.30	.97	50	3.14	1.11	27	3.14	1.02
29	2.34	.81	40	2.57	1.01	19	2.15	.76	23	2.04	.92	24	2.58	1.24	47	2.32	1.13	24	2.83	1.34
28	2.00	.54	42	1.90	.82	20	1.85	.98	24	1.91	1.17	27	1.88	.84	51	1.90	1.01	27	1.88	.93
29	2.93	.75	42	2.85	.92	20	3.30	1.03	24	3.25	1.03	27	3.11	.97	51	3.18	.99	27	3.03	1.09
27	2.63	.68	42	2.47	.77	20	2.60	.88	24	2.62	.64	26	2.65	.89	50	2.64	.78	23	2.82	.77
28	1.89	.87	42	1.66	.72	20	1.45	.68	24	1.45	.65	27	1.81	1.03	51	1.65	.89	27	1.70	.72
28	2.78	1.10	42	2.45	1.06	20	2.55	1.31	24	2.54	1.28	27	2.11	1.18	51	2.31	1.24	26	2.69	1.43
29	2.51	.63	42	2.50	.77	20	2.25	.91	24	2.50	1.25	27	2.37	.88	51	2.43	1.06	27	2.33	.96
29	2.24	1.09	42	2.50	1.11	20	2.20	.95	24	2.29	1.19	27	2.51	1.22	51	2.41	1.20	27	2.44	1.15
29	1.69	.85	42	2.14	1.13	20	1.75	1.16	24	1.83	.91	26	1.80	1.05	50	1.82	.98	27	1.81	.96
29	1.93	.84	42	2.31	1.07	20	2.05	.88	24	2.00	1.06	26	2.00	1.09	50	2.00	1.07	27	2.00	.96
29	2.10	1.01	42	2.00	.73	19	2.00	.81	24	2.20	1.10	27	2.18	.83	51	2.20	.96	26	2.30	1.01
21	2.09	.83	35	2.08	.88	17	2.00	.86	21	2.23	.88	21	2.19	.92	42	2.21	.90	18	2.55	1.04
29	2.41	.50	42	2.54	.55	19	2.63	.59	24	2.58	.58	27	2.85	.86	51	2.73	.75	27	3.00	.62
29	2.31	1.19	42	2.38	.98	20	2.60	1.39	24	1.87	1.03	27	2.11	1.05	51	2.00	1.04	27	2.63	1.33

付表1-2 入学直後調査における群別平均値

項目番号	項目名		G1 ~ G3													
			G1			G2+3			G2			G3				
			n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD		
1	高校期・受験期への回顧	進学目的の明確度	203	1.86	.94	75	2.24	1.13	63	2.33	1.09	12	1.75	1.22		
2		関与度	受験準備	204	2.50	1.02	75	2.47	1.17	63	2.40	1.16	12	2.83	1.19	
3			学業自体	203	2.55	.97	75	2.45	.96	63	2.48	.93	12	2.33	1.16	
4			クラブ・クラス活動	203	2.48	1.24	75	2.71	1.39	63	2.79	1.35	12	2.25	1.60	
5			交友	203	1.98	.92	74	2.28	1.01	62	2.32	.97	12	2.08	1.24	
6			人生指針の確立	200	2.68	1.06	73	2.56	1.07	61	2.49	1.06	12	2.92	1.08	
7			遊び・趣味	204	2.40	.97	74	2.58	1.12	63	2.57	1.12	11	2.64	1.21	
8			余裕感	203	2.52	.97	75	2.59	1.10	63	2.64	1.08	12	2.33	1.23	
9		満足感	203	2.18	1.03	75	2.37	1.09	63	2.51	1.08	12	1.67	.89		
10	生き方・人生指針	考える時間	204	2.48	1.01	75	2.57	1.04	63	2.49	1.03	12	3.00	1.04		
11		確立感	204	3.03	1.16	75	3.32	1.16	63	3.30	1.12	12	3.42	1.44		
12		生活の納得感	98	2.64	.90	25	3.16	1.11	19	3.16	1.12	6	3.17	1.17		
13	所属満足感	大 学	204	1.95	.83	75	2.21	.98	63	2.29	.97	12	1.83	.94		
14		学 部	204	1.70	.84	75	1.92	1.02	63	1.98	1.02	12	1.58	1.00		
15		学 科	199	1.82	.95	75	2.27	1.15	63	2.38	1.16	12	1.67	.99		
16		転所属志向	204	1.90	1.15	75	1.89	1.18	63	1.84	1.15	12	2.17	1.34		
17	地域への満足感	204	2.42	.92	74	2.65	1.09	62	2.76	1.13	12	2.08	.67			
18	生きがい・充実感	203	2.26	.79	75	2.48	.88	63	2.51	.82	12	2.33	1.16			
19	教養部生活への期待・展望	フォーマル局面	学業への意欲	204	1.54	.67	75	1.56	.60	63	1.59	.61	12	1.42	.52	
20			対講義	期待感	203	2.53	.77	75	2.49	.91	63	2.52	.86	12	2.33	1.16
21				適応予想	200	2.48	.77	74	2.43	.76	63	2.46	.78	11	2.27	.65
22				出席意欲	204	1.46	.67	75	1.43	.62	63	1.46	.64	12	1.25	.45
23				専門準備意欲	203	2.10	.92	75	2.32	1.11	63	2.25	1.03	12	2.67	1.44
24		対教官交流意欲	204	2.11	.93	75	2.20	.89	63	2.18	.89	12	2.33	.89		
25		インフォーマル局面	サークル関与意欲	204	1.78	.89	74	2.04	1.20	62	2.13	1.22	12	1.58	1.00	
26			友人獲得意欲	数	204	1.23	.52	73	1.44	.75	62	1.44	.76	11	1.46	.69
27				積極度	203	1.47	.71	75	1.76	.88	63	1.73	.85	12	1.92	1.08
28			対家族交流意欲	204	1.86	.74	75	1.85	.91	63	1.86	.93	12	1.83	.84	
29			下宿・寮での "	169	1.72	.77	57	2.02	.94	46	2.02	.95	11	2.00	.89	
30	全体的適応予想	203	2.06	.52	75	2.16	.57	63	2.11	.54	12	2.42	.67			
31	卒後進路明確度	204	2.29	1.28	75	2.37	1.27	63	2.44	1.25	12	2.00	1.35			

(五段階評定項目) — 昭和59年度入学生

G4 ~ G6									G7 ~ G9											
G4			G5			G6			G7			G8			G7+8			G9		
n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD
78	2.27	1.19	63	2.21	.97	18	1.89	.83	28	1.79	.88	25	2.28	1.24	53	2.02	1.08	27	2.00	1.39
78	2.42	.93	63	2.64	1.15	18	3.22	.94	29	2.48	1.12	25	3.08	1.08	54	2.76	1.13	27	2.63	1.12
78	2.64	.82	63	2.83	1.09	18	3.06	1.00	29	2.66	1.17	25	2.96	1.06	54	2.80	1.12	27	2.82	1.27
78	2.76	1.48	63	3.03	1.32	18	2.78	1.26	29	2.59	1.35	25	2.76	1.59	54	2.67	1.45	27	2.89	1.31
77	2.03	.78	63	2.48	.84	18	2.61	.92	29	1.90	1.01	25	2.28	.94	54	2.07	.99	27	2.56	.85
77	2.65	.97	63	2.92	.97	18	2.39	.98	29	2.45	1.12	24	2.46	1.10	53	2.45	1.10	27	2.33	.83
77	2.48	1.02	63	2.54	1.00	18	2.89	1.08	29	2.79	1.01	25	2.84	1.11	54	2.82	1.05	27	2.59	1.01
78	2.71	.82	63	2.94	.76	18	2.83	.86	29	2.97	1.09	25	2.76	1.05	54	2.87	1.07	27	3.07	1.11
78	2.54	1.13	63	2.51	.90	18	2.61	1.04	29	2.79	1.37	25	2.84	1.18	54	2.82	1.28	27	3.07	1.27
78	2.55	.97	63	2.62	.85	18	2.50	.92	29	2.45	1.30	25	2.32	1.15	54	2.39	1.22	27	2.41	.89
78	3.10	1.10	63	3.25	1.08	18	3.50	1.15	29	3.38	1.32	25	3.36	1.19	54	3.37	1.25	27	3.22	1.34
38	3.08	1.02	24	3.17	.92	8	3.25	.71	18	3.50	1.10	12	4.17	.72	30	3.77	1.01	15	4.40	.63
78	2.62	.93	63	2.87	1.02	18	2.89	1.02	29	3.17	1.44	25	3.08	1.15	54	3.13	1.30	27	2.93	1.24
78	2.08	.96	63	2.25	1.14	18	2.28	.90	29	2.45	1.27	25	2.84	1.41	54	2.63	1.34	27	1.96	1.19
78	2.21	1.02	62	2.24	1.08	18	2.50	1.04	29	2.52	1.33	25	3.08	1.22	54	2.78	1.30	24	2.04	1.12
78	2.18	1.15	63	2.24	1.27	18	2.72	1.41	29	2.38	1.50	25	3.04	1.34	54	2.69	1.45	27	2.44	1.42
77	2.83	1.03	63	2.95	.99	18	2.83	1.15	29	2.72	1.00	25	3.16	1.25	54	2.93	1.13	27	3.30	1.27
78	3.05	.92	63	3.29	.89	18	3.56	.78	29	3.52	1.15	24	3.96	1.12	53	3.72	1.15	27	3.59	1.15
77	1.79	.57	63	1.98	.83	18	2.00	.69	29	2.00	1.25	25	2.00	1.12	54	2.00	1.18	27	1.96	.94
78	2.74	.71	63	2.94	.76	18	2.61	.78	29	2.97	1.09	25	2.96	.89	54	2.96	.99	27	2.82	.96
76	2.58	.64	62	2.81	.77	18	2.94	1.06	27	2.52	.94	25	3.00	.96	52	2.75	.97	27	2.67	.88
78	1.51	.66	63	1.52	.74	18	1.22	.55	29	1.48	.74	25	1.72	1.02	54	1.59	.88	27	1.67	.88
78	2.37	1.08	63	2.27	1.00	18	2.39	.61	29	2.21	1.21	25	2.64	1.35	54	2.41	1.28	27	2.19	1.21
78	2.24	.83	63	2.33	.93	18	2.28	.83	29	2.00	1.07	25	2.52	1.16	54	2.24	1.13	27	2.26	1.16
78	1.83	.97	63	2.32	1.19	18	2.06	1.21	29	1.93	1.13	25	2.40	1.35	54	2.15	1.25	27	2.04	1.19
78	1.37	.65	63	1.75	.92	18	1.56	.92	29	1.41	1.05	25	1.92	1.19	54	1.65	1.14	27	1.59	.97
78	1.77	.82	63	1.97	.90	18	1.78	.94	29	1.62	1.05	25	2.36	1.29	54	1.96	1.21	27	1.78	1.01
77	2.07	.83	62	2.32	.88	18	1.72	.75	29	2.10	1.15	25	2.52	1.12	54	2.30	1.14	27	1.96	.94
61	2.15	.83	47	2.28	.93	11	2.00	.89	24	2.13	1.26	19	2.11	.88	43	2.12	1.10	18	2.39	.78
78	2.37	.51	63	2.60	.58	18	2.61	.61	29	2.62	.86	25	2.80	.58	54	2.70	.74	27	2.63	.79
77	2.27	1.20	63	2.73	1.33	17	2.71	1.31	29	2.38	1.55	25	3.04	1.59	54	2.69	1.59	27	2.82	1.42

付表2-1 入学直後調査における群別反応度数(選択式・自由記述式項目) — G1~G3 —

項 目		カテゴリー	G1 ~ G3				
			G1	G2+3	G2	G3	
出身地	東北の他県		27 (16.5) 46 (22.6)	22 (17.9) 23 (30.7)	18 (18.2) 17 (27.0)	4 (16.7) 6 (50.0)	
	関東以西		11 (6.7) 37 (18.1)	15 (12.2) 8 (10.7)	13 (13.1) 7 (11.1)	2 (8.3) 1 (8.3)	
現・浪別		現 役	138 (84.2) 145 (71.1)	97 (78.9) 56 (74.7)	75 (75.8) 47 (74.6)	22 (91.7) 9 (75.0)	
高校期に最も力をいれたこと		クラブ・クラス活動	40 (24.4) 56 (27.5)	21 (17.1) 27 (36.0)	18 (18.2) 20 (31.8)	3 (12.5) 7 (58.3)	
		遊び・趣味	12 (7.3) 15 (7.4)	13 (10.6) 6 (8.0)	8 (8.1) 5 (7.9)	5 (20.8) 1 (8.3)	
やりたくなかったのにやらざるをえなかった事		受験準備	63 (38.4) 28 (13.7)	43 (35.0) 13 (17.3)	31 (31.3) 12 (19.1)	12 (50.0) 1 (8.3)	
入学したらやりたかったこと		なし	26 (15.3) 35 (17.2)	34 (27.6) 17 (22.7)	29 (29.3) 15 (23.8)	5 (20.8) 2 (16.7)	
大学進学目的		職業・資格	72 (43.9) 100 (49.0)	45 (36.6) 27 (36.0)	38 (38.4) 22 (35.0)	7 (29.2) 5 (41.7)	
当初志望進路	大学	動機	家族の条件	52 (31.7) 74 (36.3)	46 (37.4) 16 (22.7)	37 (37.4) 11 (19.1)	9 (37.5) 5 (41.7)
			学力	10 (6.1) 16 (7.8)	5 (4.1) 11 (14.7)	4 (4.0) 10 (15.9)	1 (4.2) 1 (8.3)
			志望専攻あり	30 (18.3) 42 (20.6)	17 (13.8) 18 (24.0)	13 (13.1) 12 (19.1)	4 (16.7) 6 (50.0)
現所属選択動機		やりたい事がやれそう	42 (25.6) 74 (36.3)	31 (25.2) 24 (33.3)	22 (22.2) 17 (28.6)	9 (37.5) 7 (58.3)	
		学力	123 (75.0) 172 (84.3)	81 (65.9) 60 (80.0)	65 (65.7) 50 (79.4)	16 (66.7) 10 (83.3)	
		街にひかれて	17 (10.4) 25 (10.3)	18 (14.6) 8 (10.7)	11 (11.1) 6 (9.5)	7 (29.2) 2 (16.7)	
自我中核的準拠集団		大学での友人	39 (23.8) 25 (12.3)	41 (33.3) 4 (5.3)	34 (34.3) 3 (4.8)	7 (29.2) 1 (8.3)	
		なし	21 (12.8) 12 (5.9)	2 (1.6) 5 (6.7)	2 (2.0) 5 (7.9)	0 0	
そこでの中核的活動		学 業	9 (5.5) 18 (8.8)	15 (12.2) 7 (9.3)	13 (13.1) 6 (9.5)	2 (8.3) 1 (8.3)	
		サークル・寮活動	30 (18.3) 25 (12.3)	20 (16.3) 4 (5.3)	18 (18.2) 2 (3.2)	2 (8.3) 2 (16.7)	
		遊 び	27 (16.5) 9 (4.4)	13 (10.6) 6 (8.0)	8 (8.1) 4 (6.4)	5 (20.8) 2 (16.7)	
		とくになし	18 (11.0) 18 (8.8)	21 (17.1) 15 (20.0)	17 (17.2) 15 (23.8)	4 (16.7) 0	
今、最も力をいれている事		交 友	30 (18.3) 28 (13.7)	13 (10.6) 8 (10.7)	8 (8.1) 7 (11.1)	5 (20.8) 1 (8.3)	
		人生観・読書	5 (3.1) 7 (3.4)	11 (8.9) 2 (2.7)	9 (9.1) 1 (1.6)	2 (8.3) 1 (8.3)	
		遊び・趣味	11 (6.7) 8 (3.9)	5 (4.1) 7 (9.3)	2 (2.0) 5 (7.9)	3 (12.5) 2 (16.7)	
今後力を入れたいこと	教養部期	クラブ・寮活動	9 (5.5) 17 (8.3)	7 (5.7) 8 (10.7)	4 (4.0) 4 (6.4)	3 (12.5) 4 (33.3)	
	学部移籍後	交 友	7 (4.3) 4 (2.0)	0 2 (2.7)	0 2 (3.2)	0 0	
群 別 の N		S. 54	164	123	99	24	
		S. 59	204	75	63	12	

注 上段…S54生の度数(%), 下段…S59生の度数(%)

付表2-2 — G4～G6—

項 目	カ テ ゴ リ ー	G 4 ～ G 6			
		G 4	G 5	G 6	
出 身 地	北 海 道	4 (13.8) 7 (9.0)	4 (9.5) 11 (17.5)	6 (30.0) 6 (33.3)	
住 ま い	自 宅	11 (37.9) 16 (20.5)	8 (19.1) 16 (25.4)	5 (25.0) 7 (38.9)	
	寮	4 (13.8) 26 (33.3)	17 (40.5) 13 (20.6)	4 (20.0) 7 (38.9)	
	(下宿+アパート)	8 (27.8) 36 (46.2)	11 (26.2) 34 (54.0)	7 (35.0) 4 (22.2)	
高 校 期 に 最 も 力 を い れ た こ と	ク ラ ブ ・ ク ラ ス 活 動	9 (31.0) 23 (29.5)	6 (14.3) 11 (17.5)	5 (25.0) 3 (16.7)	
や り た く な か っ た の に や ら ざ る を え な か っ た 事	な し	3 (10.3) 40 (51.3)	9 (21.4) 38 (60.3)	3 (15.0) 16 (88.9)	
大 学 進 学 目 的	職 業 ・ 資 格	14 (48.3) 35 (44.9)	15 (35.7) 22 (34.9)	3 (15.0) 10 (55.6)	
当 初 志 望 進 路	大 学	旧 1 期	9 (31.0) 21 (26.9)	13 (31.0) 22 (34.9)	6 (30.0) 10 (55.6)
現 所 属 選 択 動 機	や り た い 事 が や れ そ う	6 (20.7) 21 (26.9)	5 (11.9) 19 (30.1)	5 (25.0) 1 (5.6)	
	学 力	24 (82.8) 69 (88.5)	27 (64.3) 51 (81.0)	15 (75.0) 16 (88.9)	
	趣 味 ・ 適 性	4 (13.8) 19 (24.4)	2 (4.8) 12 (19.1)	5 (25.0) 3 (16.7)	
	職 業 ・ 資 格	14 (48.3) 44 (56.4)	10 (23.8) 27 (42.9)	8 (40.0) 8 (44.4)	
	家 か ら 近 い	15 (51.7) 23 (29.5)	10 (23.8) 20 (31.8)	5 (25.0) 6 (33.3)	
自 我 中 核 的 準 拠 集 団	家 族	3 (10.3) 14 (18.0)	11 (26.2) 9 (14.3)	2 (10.0) 6 (33.3)	
	高 校 期 の 友 人	16 (55.2) 35 (44.9)	10 (23.8) 28 (44.4)	8 (40.0) 4 (22.2)	
そ こ で の 中 核 的 活 動	人 生 観 ・ 世 界 観 の 探 求	6 (20.7) 4 (5.1)	11 (26.2) 7 (11.1)	3 (15.0) 4 (22.2)	
	と く に な し	2 (6.9) 4 (5.1)	8 (19.1) 5 (7.9)	2 (10.0) 5 (27.8)	
今 後 力 を 入 れ た い こ と	教 養 部 期	学 業	7 (24.1) 25 (32.1)	2 (4.8) 19 (30.2)	1 (5.0) 10 (55.6)
		交 友	5 (17.2) 19 (24.4)	5 (11.9) 7 (11.1)	5 (2.5) 2 (11.1)
	学 部 移 籍 後	卒 業 へ の 準 備	1 (3.5) 3 (3.4)	3 (7.1) 3 (4.8)	1 (5.0) 4 (22.2)
		学 業	20 (69.0) 52 (66.7)	22 (52.4) 36 (57.1)	9 (45.0) 11 (61.1)
卒 後 志 望 進 路	就 職	21 (72.4) 64 (82.1)	26 (61.9) 38 (60.3)	15 (75.0) 15 (83.3)	
	未 定	3 (10.3) 3 (3.9)	5 (11.9) 9 (14.3)	0 1 (5.6)	
群 別 の N	S. 54	29	42	20	
	S. 59	78	63	18	

付表2-3 — G7~G9 —

項 目		カテゴリー	G7 ~ G9					
			G7	G8	G7+8	G9		
住 ま い		自 宅	2 (8.3) 5 (17.2)	6 (22.2) 6 (24.0)	8 (15.7) 11 (20.4)	10 (37.0) 9 (33.3)		
		下 宿	11 (45.8) 8 (27.6)	6 (22.2) 13 (52.0)	17 (33.3) 21 (38.9)	2 (7.4) 7 (25.9)		
高 校 期 に 最 も 力 を い れ た こ と		遊 び ・ 趣 味	5 (20.8) 0	1 (3.7) 0	6 (11.8) 0	1 (3.7) 3 (11.1)		
		な し	1 (4.2) 6 (20.7)	2 (7.4) 12 (48.0)	3 (5.9) 18 (33.3)	3 (11.1) 3 (11.1)		
や り た か っ た が や れ な か っ た こ と		遊 び ・ 趣 味	7 (29.2) 2 (6.9)	2 (7.4) 0	9 (17.3) 2 (3.7)	4 (14.8) 9 (33.3)		
		な し	2 (8.3) 10 (34.5)	4 (14.8) 10 (40.0)	6 (11.5) 20 (37.0)	1 (3.7) 3 (11.1)		
や り た く な か っ た の に や ら ざ る を え な か っ た こ と		学 業	9 (37.5) 7 (24.1)	8 (29.6) 1 (4.0)	17 (32.7) 8 (14.8)	6 (22.2) 4 (14.8)		
		な し	5 (20.8) 14 (48.3)	6 (22.2) 15 (60.0)	11 (21.2) 29 (53.7)	4 (14.8) 9 (33.3)		
入 学 し た ら や り た か っ た こ と		な し	7 (29.2) 8 (27.6)	2 (7.4) 5 (20.0)	9 (17.6) 13 (24.1)	6 (22.2) 3 (11.1)		
当 初 志 望 動 機	大 学	動 機	家 族 の 条 件	9 (37.5) 9 (31.0)	9 (33.3) 8 (32.0)	18 (34.6) 17 (31.5)	4 (14.8) 7 (25.9)	
			職 業 ・ 資 格	0 4 (13.8)	0 1 (4.0)	0 5 (9.3)	5 (18.5) 1 (3.7)	
			志 望 専 攻 あ り	0 5 (17.2)	1 (3.7) 3 (12.0)	1 (1.9) 8 (14.8)	5 (18.5) 4 (14.8)	
	学 部		現 所 属 に 一 致	14 (58.3) 16 (55.2)	17 (63.0) 16 (64.0)	31 (60.8) 32 (59.3)	10 (37.0) 20 (74.1)	
			累 系	0 4 (13.8)	0 1 (4.0)	0 5 (9.3)	4 (14.8) 0	
			志 望 専 攻 あ り	2 (8.3) 6 (20.7)	6 (22.2) 5 (20.0)	8 (15.7) 11 (20.4)	5 (18.5) 1 (3.7)	
			興 味 ・ 適 性	5 (20.8) 5 (17.2)	9 (33.3) 6 (24.0)	14 (27.5) 11 (20.4)	7 (25.9) 13 (48.2)	
	学 科		現 所 属 に 一 致	9 (37.5) 11 (37.9)	10 (37.0) 11 (44.0)	19 (37.3) 22 (40.7)	4 (14.8) 18 (66.7)	
			同 系	11 (45.8) 13 (44.8)	11 (40.7) 8 (32.0)	22 (43.1) 21 (38.9)	7 (25.9) 5 (18.5)	
			累 系	0 2 (6.9)	0 2 (8.0)	0 4 (7.4)	4 (14.8) 1 (3.7)	
			動 機	職 業 ・ 資 格	5 (20.8) 9 (31.0)	9 (33.3) 6 (24.0)	14 (27.5) 15 (27.8)	2 (7.4) 2 (7.4)

項 目	カ テ ゴ リ ー	G7 ~ G9				
		G7	G8	G7+8	G9	
現所属選択動機	やりたい事がやれそう	4 (16.7) 13 (44.8)	5 (18.5) 3 (12.0)	9 (17.7) 16 (29.6)	7 (25.9) 8 (29.6)	
	興 味 ・ 適 性	2 (8.3) 10 (34.5)	4 (14.8) 1 (4.0)	6 (11.8) 11 (20.4)	3 (11.1) 6 (22.2)	
	職 業 ・ 資 格	11 (45.8) 16 (55.2)	5 (18.5) 7 (28.0)	16 (31.4) 23 (42.6)	5 (18.5) 6 (37.0)	
自我中核的準拠集団	高 校 期 の 友 人	14 (58.3) 10 (34.5)	7 (25.9) 9 (36.0)	21 (41.2) 19 (35.2)	10 (37.0) 9 (33.3)	
	大 学 で の 友 人	0 2 (6.9)	12 (44.4) 0	12 (23.5) 2 (3.7)	4 (14.8) 2 (7.4)	
そこでの中核的活動	学 業	7 (29.2) 4 (13.8)	8 (29.6) 3 (12.0)	15 (29.4) 7 (13.0)	2 (7.4) 2 (7.4)	
		今, 最も力を いれている事	遊 び ・ 趣 味	2 (8.3) 0	1 (3.7) 0	3 (5.9) 0
今後力を入 れたいこと	教養部期	な し	1 (4.2) 7 (24.1)	3 (11.1) 7 (28.0)	4 (7.7) 14 (25.9)	1 (3.7) 3 (11.1)
	学 部 移 籍 後	学 業	12 (50.0) 17 (58.6)	22 (81.5) 12 (48.0)	34 (66.7) 29 (53.7)	13 (48.2) 17 (63.0)
		な し	3 (12.5) 3 (10.3)	2 (7.4) 5 (20.0)	5 (9.8) 8 (14.8)	2 (7.4) 2 (7.4)
各 群 の N	S. 54	24	27	52	27	
	S. 59	59	25	54	27	

付表3-1 7月時調査における群別平均値

項目番号	項目名		G1 ~ G3												
			G1			G2+G3			G2			G3			
			n	\bar{x}	SD	\bar{n}	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	
1	所属満足感	大 学	95	2.05	.82	86	2.41	.71	69	2.45	.70	17	2.24	.75	
2		学 部	95	2.06	.92	87	2.35	.79	70	2.33	.79	17	2.41	.80	
3		学 科(課 程)	92	2.22	.97	84	2.36	.87	68	2.37	.90	16	2.31	.79	
4		転学(部科)志向の弱さ	95	1.53	.97	87	1.90	1.05	70	1.87	.99	17	2.00	1.28	
5	地 域 満 足 感		95	2.33	1.05	87	2.64	.95	70	2.71	.94	17	2.35	1.00	
6	4	講義と の 関 係	魅 力 度	95	3.22	.87	87	3.24	.88	70	3.27	.90	17	3.12	.78
7			つ いて い け る	95	2.36	.87	85	2.55	.78	69	2.58	.78	16	2.44	.81
8			出 席 度	94	2.19	.93	87	2.26	.80	70	2.21	.82	17	2.47	.72
9		専 門 準 備 度		94	4.14	1.02	86	4.15	.99	70	4.06	.99	16	4.56	.89
10	7	対 教 官 交 流 度		95	4.37	.95	87	4.56	.83	70	4.53	.85	17	4.71	.77
11	月	サークル関与度		64	1.72	1.11	51	2.31	1.35	39	2.26	1.37	12	2.50	1.31
12	への 関 係	友 人 係	友 人 数	91	2.08	.75	85	2.44	.70	68	2.46	.66	17	2.35	.86
13			適 応 感	94	1.85	.70	86	2.02	.59	69	2.00	.59	17	2.12	.60
14	15	下 宿 ・ 寮	適 応 感	65	1.97	.88	65	2.06	.70	52	2.08	.71	13	2.00	.71
15			交 流 度	64	2.08	1.04	65	2.55	1.15	52	2.48	1.11	13	2.85	1.28
16	17	対家族	適 応 感	88	1.76	.84	85	1.88	.71	68	1.84	.73	17	2.06	.66
17			交 流 度	81	2.15	1.03	78	2.51	.96	62	2.52	1.02	16	2.50	.73
18	19	生 き 方 人 生 指 針	考 える 時 間	94	2.50	1.13	87	2.75	1.04	70	2.86	1.00	17	2.29	1.11
19			確 立 感	93	2.86	1.10	86	3.23	1.13	69	3.30	1.10	17	2.94	1.25
20			生 活 の 納 得 感	70	2.84	.94	52	3.17	.86	40	3.23	.86	12	3.00	.85
21	生 き が い 充 実 感		95	2.14	.77	87	2.58	.71	70	2.57	.65	17	2.59	.94	
22	23	3 月 ま で の 展 望	学 業 へ の 意 欲	95	1.95	.98	86	2.04	.94	69	2.00	.89	17	2.18	1.13
23			出 席 意 欲	95	1.94	1.02	86	1.98	.91	69	1.90	.86	17	2.29	1.05
24			サークル関与意欲	95	2.10	1.19	83	2.47	1.20	66	2.47	1.23	17	2.47	1.13
25			交 友 へ の 意 欲	95	1.43	.61	86	1.58	.66	69	1.58	.63	17	1.59	.80
26			力を入れたい事の実現見込	81	2.15	.98	71	1.86	.64	56	1.86	.65	15	1.87	.64
27			全 体 的 適 応 予 想		94	2.04	.55	86	2.20	.53	69	2.19	.52	17	2.24

注) 高得点ほど否定的反応を示す。付表3-2も同じ。

(五段階評定項目) — 昭和54年度入学生

G4 ~ G6												G7 ~ G9								
G4			G5			G6			G7			G8			G7+G8			G9		
n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD
27	2.33	.96	85	2.67	.84	30	2.60	.77	11	3.00	.89	24	2.92	.93	35	2.94	.91	21	2.71	1.06
27	2.22	1.01	85	2.31	.98	30	2.30	.88	11	2.55	1.04	24	2.63	1.01	35	2.60	1.01	21	2.38	.87
27	2.52	1.19	79	2.47	.93	27	2.56	.85	10	2.60	1.27	23	2.61	1.03	33	2.61	1.09	20	2.95	.83
27	1.70	1.07	85	1.81	.99	30	1.77	1.01	10	2.20	1.03	24	2.58	1.32	34	2.47	1.24	21	2.05	1.20
27	2.48	1.01	85	2.79	.93	30	2.90	.96	11	2.82	.87	24	2.92	1.14	35	2.89	1.05	21	2.52	1.12
27	3.11	1.01	85	3.55	.82	30	3.67	.84	11	3.82	1.17	24	3.67	.92	35	3.71	.99	21	3.95	1.02
27	2.52	.75	85	2.60	.74	30	2.80	.89	11	2.18	.75	24	3.04	.81	35	2.77	.88	21	3.00	1.00
27	2.33	1.11	84	2.30	.82	30	2.40	.93	11	2.18	.87	24	2.71	.86	35	2.54	.89	20	2.95	1.19
27	3.89	1.12	83	4.24	.97	30	4.23	.94	10	4.30	1.06	24	4.63	.58	34	4.53	.75	20	4.45	.69
27	4.44	1.01	85	4.53	.85	30	4.63	.62	11	4.55	.82	24	4.67	.87	35	4.63	.84	20	4.65	.81
22	1.77	.92	52	2.67	1.21	18	2.00	1.09	8	2.28	1.51	13	2.00	1.35	21	2.14	1.39	6	2.83	1.47
26	2.19	.90	82	2.65	.71	30	2.70	.95	10	2.50	.85	23	2.87	.76	33	2.76	.79	20	3.00	.92
27	1.96	.76	85	2.41	.64	30	2.43	.77	11	2.64	.67	24	2.75	.90	35	2.71	.83	21	2.57	.81
21	2.81	1.25	60	2.63	.96	19	2.74	1.05	7	3.57	.79	15	2.47	.92	22	2.82	1.01	16	2.63	1.03
21	2.43	1.21	60	2.83	1.06	19	2.58	1.02	7	3.00	1.16	15	2.73	1.28	22	2.82	1.22	16	2.44	1.09
27	1.85	.72	82	2.09	.74	28	2.29	1.01	11	2.00	1.00	24	2.25	.85	35	2.17	.89	19	2.32	.67
26	2.15	.83	79	2.43	.81	22	2.68	1.00	11	2.36	1.03	22	2.77	.87	33	2.64	.93	18	2.89	.96
27	2.70	1.17	85	2.98	.95	30	2.50	1.04	11	2.73	1.27	24	2.71	1.00	35	2.71	1.07	21	2.71	1.01
27	2.74	1.10	85	3.45	1.11	30	2.97	1.16	11	3.18	1.33	24	3.83	1.05	35	3.63	1.17	21	3.57	1.17
23	3.26	.75	43	3.56	.80	22	3.41	.91	6	3.33	1.21	11	4.00	.63	17	3.77	.90	11	4.18	.98
27	2.82	.62	84	3.14	.70	30	3.00	.79	11	3.82	.87	24	3.71	.86	35	3.74	.85	21	4.05	.74
27	2.00	.92	85	2.37	.96	30	2.27	.98	11	2.64	1.36	24	2.71	1.23	35	2.69	1.26	21	2.19	1.17
27	1.78	.75	85	2.18	.92	30	2.13	.90	11	2.36	1.50	24	2.67	1.13	35	2.57	1.24	21	2.14	.85
27	2.07	1.36	85	2.69	1.24	29	2.52	1.33	11	2.46	1.21	24	2.42	1.21	35	2.43	1.20	20	2.75	1.55
27	1.48	.64	85	1.92	.86	30	2.00	1.05	11	1.73	.65	24	2.13	.95	35	2.00	.87	21	2.00	1.18
22	2.05	.84	67	2.27	.85	26	2.27	.78	9	2.00	.71	19	2.47	.77	28	2.32	.77	16	2.81	.98
27	2.67	.56	84	2.67	.65	30	2.77	.50	11	2.55	.52	24	2.79	.59	35	2.71	.57	21	3.24	.63

付表3-2 7月時調査における群別平均値

項目番号	項目名		G1 ~ G3											
			G1			G2+G3			G2			G3		
			n	\bar{x}	SD	\bar{n}	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD
1	所属満足感	大 学	214	2.06	.88	74	2.19	.93	61	2.12	.88	13	2.54	1.13
2		学 部	214	1.81	.82	74	1.97	1.10	61	1.92	1.01	13	2.23	1.48
3		学 科 (課 程)	207	1.92	.87	72	2.10	1.18	59	1.98	1.04	13	2.62	1.61
4		転学(部科)志向の弱さ	214	1.66	.10	74	1.97	1.21	61	1.90	1.18	13	2.31	1.32
5	地 域 満 足 感		214	2.44	.96	74	2.70	1.17	61	2.64	1.14	13	3.00	1.29
6	4 講義と の関係	魅 力 度	214	3.22	.87	74	3.26	.99	61	3.26	.95	13	3.23	1.24
7		つ いて い け る	209	2.50	.80	73	2.60	.80	60	2.62	.72	13	2.54	1.13
8		出 席 度	213	2.30	.82	74	2.54	.83	61	2.56	.72	13	2.46	1.27
9		専 門 準 備 度	212	4.19	1.02	73	4.33	.99	61	4.26	1.03	12	4.67	.65
10	7	対 教 官 交 流 度	211	4.48	.85	74	4.51	.75	61	4.51	.77	13	4.54	.66
11	月	サークル関与度	156	1.73	1.10	48	2.00	1.13	41	1.88	.93	7	2.71	1.89
12	へ の 友 人 関 係	友 人 数	212	2.13	.82	74	2.46	.76	61	2.44	.67	13	2.54	1.13
13		適 応 感	214	1.75	.62	74	2.00	.57	61	1.98	.59	13	2.08	.49
14	回 顧 下 宿 寮	適 応 感	170	1.93	.87	64	2.08	.90	53	2.02	.87	11	2.36	1.03
15		交 流 度	170	2.37	1.10	64	2.31	1.08	53	2.32	1.09	11	2.27	1.10
16	対 家 族	適 応 感	214	1.63	.70	74	1.84	.91	61	1.72	.84	13	2.39	1.04
17		交 流 度	214	2.08	.91	74	2.24	1.07	61	2.16	1.04	13	2.62	1.19
18	生 き 方 人 生 指 針	考 える 時 間	214	2.44	1.00	74	2.54	.97	61	2.56	.98	13	2.46	.97
19		確 立 感	214	2.88	1.15	74	3.15	1.08	61	3.20	1.09	13	2.92	1.04
20		生 活 の 納 得 感	99	2.91	1.01	29	3.03	1.02	24	2.96	1.00	13	3.40	1.14
21	生 き が い 充 実 感		214	2.32	.84	74	2.49	.82	61	2.48	.77	13	2.54	1.05
22	3 月 ま だ の 展 望	学 業 へ の 意 欲	214	1.93	.81	74	2.00	.84	61	1.98	.76	13	2.08	1.19
23		出 席 意 欲	214	1.84	.79	74	1.96	.75	61	1.97	.77	13	1.92	.64
24		サークル関与意欲	213	1.92	1.06	73	2.37	1.28	60	2.28	1.20	13	2.77	1.59
25		交 友 へ の 意 欲	214	1.45	.63	74	1.80	.86	61	1.69	.65	13	2.31	1.44
26		力を入れたい事の実現見込	126	2.00	.77	34	2.27	.79	26	2.15	.66	8	2.63	1.06
27		全 体 的 適 応 予 想		207	2.15	.60	73	2.32	.60	60	2.30	.59	13	2.39

(五段階評定項目) — 昭和59年度入学生

G4 ~ G6									G7 ~ G9											
G4			G5			G6			G7			G8			G7+G8			G9		
n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD	n	\bar{x}	SD
49	2.50	1.00	64	2.55	.82	17	3.12	.70	18	2.39	.92	16	2.63	1.03	34	2.50	.96	19	3.37	1.12
49	2.06	.80	64	2.19	.97	17	2.53	.87	18	2.17	1.10	16	1.94	1.12	34	2.06	1.01	19	2.69	1.20
48	2.10	.91	61	2.39	.97	17	2.71	1.05	18	2.33	1.14	16	2.25	1.24	34	2.29	1.17	19	2.90	1.20
49	2.12	1.20	64	1.91	1.04	17	2.12	1.11	18	1.94	1.16	16	1.88	1.36	34	1.91	1.24	19	2.68	1.29
49	2.84	1.05	64	3.02	1.05	17	3.47	1.23	18	2.22	.88	16	3.00	1.21	34	2.59	1.10	19	3.32	1.29
49	3.61	.84	64	3.23	.81	17	3.71	.69	18	3.39	1.09	16	3.81	.83	34	3.59	.99	19	3.47	1.17
48	2.65	.70	64	2.95	.84	17	3.00	.79	18	2.78	.88	15	3.07	.70	33	2.91	.81	19	2.68	1.06
48	2.52	1.03	64	2.36	.90	16	2.50	1.03	18	2.33	.84	16	2.81	1.42	34	2.56	1.16	19	2.21	.86
49	4.37	.93	64	4.20	1.07	17	4.71	.59	18	4.06	1.06	16	4.56	.89	34	4.29	1.00	19	4.42	.90
49	4.41	.96	63	4.64	.68	17	4.88	.49	18	4.67	.77	16	4.81	.40	34	4.74	.62	19	4.68	.58
32	2.09	1.25	37	2.19	1.24	11	2.09	1.38	11	1.82	1.40	11	2.18	1.33	22	2.00	1.35	10	2.10	.88
47	2.47	.62	64	2.81	.64	17	3.00	.71	18	2.67	1.09	16	3.00	.73	34	2.82	.94	18	3.22	.94
49	2.12	.60	61	2.30	.62	17	2.47	.62	17	2.18	1.02	16	2.50	.82	33	2.33	.92	19	3.16	.60
35	2.43	1.09	47	2.60	.88	13	2.69	1.03	14	2.43	1.02	11	2.82	.75	25	2.60	.91	12	2.83	1.03
35	2.29	.79	47	2.83	1.07	13	2.85	1.21	14	3.00	1.11	11	2.91	.83	25	2.96	.98	12	3.50	1.38
49	2.00	.76	64	2.13	.81	17	2.12	.70	18	1.78	.88	16	1.94	.68	34	1.85	.78	19	2.26	.99
48	2.33	.91	64	2.39	.95	17	2.41	1.00	18	2.33	.97	16	2.00	1.03	34	2.18	1.00	19	2.63	.83
49	2.57	1.01	64	2.75	.94	17	2.65	1.06	18	3.00	1.33	16	2.63	.89	34	2.82	1.14	19	2.37	.83
49	3.04	1.15	64	3.42	1.10	16	3.00	.97	18	3.33	1.24	16	3.25	1.24	34	3.29	1.22	19	3.37	1.12
17	3.59	1.12	18	3.28	.83	8	3.38	.92	9	4.44	.73	5	4.20	.84	14	4.36	.75	9	4.11	.78
49	3.14	1.02	63	3.27	.90	17	3.59	1.12	18	3.61	1.24	16	4.00	.73	34	3.79	1.04	19	4.11	.81
49	2.06	.80	64	2.34	.88	17	2.18	.95	18	1.83	.71	16	2.19	1.22	34	2.00	.99	19	2.32	.95
49	2.04	.98	64	2.09	.92	17	1.88	.93	18	1.78	.88	16	2.13	1.26	34	1.94	1.07	19	1.90	.81
49	2.25	1.28	64	2.61	1.34	17	2.94	1.64	18	2.56	1.50	16	2.31	1.49	34	2.44	1.48	19	2.53	1.22
49	1.67	.72	64	2.09	.94	17	2.24	1.20	18	1.89	1.02	16	1.88	.72	34	1.88	.88	19	2.26	1.10
28	2.18	.86	23	2.57	.59	9	2.00	.87	13	2.62	1.12	10	2.30	1.16	23	2.48	1.12	14	2.93	1.21
48	2.69	.62	59	2.80	.61	16	2.69	.60	16	3.06	.57	19	3.63	.83	33	3.00	.71	19	3.63	.83

付表4-1 7月時調査における群別反応度数

項 目	カテゴリー	G1 ~ G3			
		G1	G2+3	G2	G3
住 ま い	間借・アパート	11 (11.6) 47 (22.0)	18 (20.7) 9 (12.2)	14 (20.0) 8 (13.1)	4 (23.5) 1 (7.7)
	下 宿	42 (44.2) 68 (31.8)	29 (33.3) 27 (36.5)	26 (37.1) 25 (41.0)	3 (17.7) 2 (15.4)
	寮	16 (16.8) 51 (23.8)	17 (19.5) 27 (36.5)	11 (15.7) 20 (32.8)	6 (35.3) 7 (53.9)
サークル	参 加	64 (67.4) 158 (73.8)	48 (55.2) 48 (64.9)	36 (51.4) 41 (67.2)	12 (70.6) 7 (53.9)
友人の質	(親友+きかねない)	24 (25.3) 54 (25.2)	14 (16.1) 12 (16.2)	11 (15.7) 10 (16.4)	3 (17.7) 2 (15.4)
自我中核的準拠集団	大学での友人	25 (26.3) 41 (19.2)	24 (27.6) 6 (8.1)	18 (25.7) 5 (8.2)	6 (35.3) 1 (7.7)
	サークル・寮での友人	13 (13.7) 48 (22.4)	3 (3.5) 24 (32.4)	2 (2.9) 20 (32.8)	1 (5.7) 4 (30.8)
そこでの中核的活動	サークル・寮活動	16 (16.8) 37 (17.3)	7 (8.1) 14 (18.9)	7 (10.0) 11 (18.0)	0 3 (23.1)
	趣 味	3 (3.2) 13 (6.1)	3 (3.5) 9 (12.2)	3 (4.3) 6 (9.8)	0 3 (23.1)
	対人関係そのもの	27 (28.4) 5 (2.3)	32 (36.8) 25 (33.8)	26 (37.1) 21 (34.4)	6 (35.3) 4 (30.8)
	特 に な し	7 (7.4) 0	4 (4.6) 7 (9.5)	4 (5.7) 7 (11.5)	0 0
これまで力を入れた事	な し	1 (1.05) 25 (11.7)	3 (3.45) 15 (20.3)	3 (4.3) 14 (23.0)	0 1 (7.7)
	人生観・読書	4 (4.21) 12 (5.6)	9 (10.3) 3 (4.1)	5 (7.1) 1 (1.6)	4 (23.5) 2 (15.4)
やりたかったが やれなかったこと	サークル・寮活動	13 (13.7) 13 (6.1)	9 (10.3) 7 (9.5)	7 (10.0) 4 (6.6)	2 (11.8) 3 (23.1)
やらざるを えなかったこと	出 席	1 (1.1) 0	7 (8.05) 0	5 (7.14) 0	2 (11.8) 0
	サークル・寮活動	10 (10.5) 12 (5.6)	6 (6.9) 8 (10.8)	5 (7.1) 5 (8.2)	1 (5.9) 3 (23.1)
	な し	67 (70.3) 176 (82.2)	56 (64.4) 55 (74.3)	45 (64.3) 48 (78.7)	11 (64.7) 7 (53.9)
今もっとも力を 入れていること	学 業	11 (11.6) 11 (5.1)	1 (1.2) 6 (8.1)	1 (1.4) 5 (8.2)	0 1 (7.7)
	サークル・寮活動	32 (33.7) 60 (28.0)	30 (34.5) 11 (14.9)	25 (35.7) 10 (16.4)	5 (29.4) 1 (7.7)
	人生観・読書	5 (5.3) 14 (6.6)	8 (9.2) 3 (4.1)	3 (4.3) 2 (3.3)	5 (29.4) 1 (7.7)
	な し	5 (5.3) 50 (23.4)	8 (9.2) 27 (36.5)	7 (10.0) 25 (41.0)	1 (5.9) 2 (15.4)

(選択式・自由記述式項目について) — G1~G3 —

項 目	カ テ ゴ リ ー	G 1 ~ G 3				
		G 1	G 2+3	G 2	G 3	
SA・A の 理 由	無 答	8 (8.4) 11 (5.1)	11 (12.6) 9 (12.2)	8 (11.4) 8 (13.1)	3 (17.7) 1 (7.7)	
	欲 求 充 足	19 (20.0) 12 (5.6)	23 (26.4) 10 (13.5)	16 (22.9) 8 (13.1)	7 (41.2) 2 (15.4)	
	プ ラ ス 感 情	15 (15.8) 0	9 (10.3) 0	7 (10.0) 0	2 (11.8) 0	
	不 満 ・ 悩 み が な い	11 (11.6) 23 (10.8)	23 (26.4) 12 (16.2)	16 (22.9) 10 (16.4)	7 (41.2) 2 (15.4)	
今 後 力 を 入 れ たい 事	教 養 期	サークル・寮活動	13 (13.7) 22 (10.3)	10 (11.5) 1 (1.4)	9 (12.9) 1 (1.6)	1 (5.9) 0
		遊 び	3 (3.2) 5 (2.3)	3 (3.5) 3 (4.1)	2 (2.9) 0	1 (5.9) 3 (23.1)
		な し	7 (7.4) 64 (29.9)	4 (4.6) 34 (46.0)	4 (5.7) 29 (47.5)	0 5 (38.5)
	学 部 期	単 位 ・ 進 級	4 (4.2) 2 (0.9)	2 (2.3) 2 (2.7)	1 (1.4) 0	1 (5.9) 2 (15.4)
		な し	8 (8.4) 49 (22.9)	5 (5.8) 26 (35.1)	4 (5.7) 25 (41.0)	1 (5.9) 1 (7.7)
卒 後 志 望 進 路	未 定	18 (19.0) 8 (3.7)	20 (23.0) 8 (10.8)	19 (27.1) 7 (11.5)	1 (5.9) 1 (7.7)	
各 群 の N	S. 54	95	87	70	17	
	S. 59	214	74	61	13	

注 上段……S.54生の度数(%)

下段……S.59生の度数(%)

付表4-2 — G4~G6 —

項 目	カテゴリー	G4 ~ G6			
		G4	G5	G6	
住 ま い	間借・アパート	3 (11.1) 6 (12.2)	12 (14.2) 13 (20.3)	2 (6.7) 7 (41.2)	
	寮	13 (48.2) 10 (20.4)	25 (29.4) 11 (17.2)	4 (13.3) 3 (17.7)	
サ ー ク ル	参 加	22 (81.5) 32 (65.3)	49 (57.7) 37 (57.8)	98 (60.0) 10 (58.8)	
友 人 の 質	きがねない人あり	19 (70.4) 31 (63.3)	39 (45.9) 35 (54.7)	14 (46.7) 6 (35.3)	
	あったら話す人まで	2 (7.4) 1 (2.0)	12 (14.1) 10 (15.6)	8 (26.7) 5 (29.4)	
	(親友+きがねない)	4 (14.8) 9 (18.4)	11 (12.9) 10 (15.6)	4 (13.3) 2 (11.8)	
自我中核的準拠集団	家 族	5 (18.5) 6 (12.2)	11 (12.9) 21 (32.8)	2 (6.7) 2 (11.8)	
	高 校 期 の 友 人	6 (22.2) 13 (26.5)	9 (10.6) 13 (30.3)	7 (23.3) 4 (23.5)	
	大 学 で の 友 人	3 (11.1) 12 (24.5)	22 (25.9) 7 (10.9)	10 (33.3) 2 (11.8)	
	な し	2 (7.4) 1 (2.0)	9 (10.6) 5 (7.8)	2 (6.7) 4 (23.5)	
そこでの中核的活動	人 生 観	4 (14.9) 4 (8.2)	2 (2.4) 4 (6.3)	3 (10.0) 3 (17.8)	
	と く に な し	3 (11.1) 3 (6.1)	11 (12.9) 12 (18.8)	4 (13.3) 3 (17.7)	
これまで力を 入れたこと	交 友	4 (14.8) 11 (22.5)	11 (12.9) 8 (12.5)	4 (13.3) 0	
	な し	0 12 (24.5)	5 (5.9) 29 (45.3)	1 (3.3) 4 (23.5)	
やりたかったが やれなかったこと	学 業	8 (29.6) 21 (42.9)	17 (20.0) 10 (15.6)	8 (26.7) 8 (47.1)	
	な し	7 (25.9) 14 (28.6)	45 (52.9) 39 (60.9)	11 (36.7) 2 (11.8)	
やらざるを えなかったこと	な し	12 (44.4) 41 (83.7)	51 (60.0) 48 (75.0)	21 (70.0) 10 (58.8)	
今、もっとも力を 入れていること	サークル・寮活動	12 (44.4) 6 (12.2)	23 (27.0) 12 (18.8)	6 (20.0) 2 (11.8)	
	目 標 確 立	1 (3.7) 5 (10.2)	10 (11.8) 1 (1.6)	6 (20.0) 0	
SA の 改 善 策	コミットメントの増大	4 (14.8) 10 (20.4)	9 (10.6) 4 (6.3)	4 (13.3) 4 (23.5)	
	わ か ら な い	2 (7.4) 22 (44.9)	14 (16.5) 43 (67.2)	2 (6.7) 7 (41.2)	
	無 答	9 (33.3) 15 (25.6)	10 (11.8) 5 (7.9)	3 (10.0) 4 (23.5)	
	教 養 期	人 生 観 ・ 読 書	7 (25.9) 4 (8.2)	4 (4.7) 1 (1.6)	4 (13.3) 3 (17.7)
今後力を 入れたこと	な し	1 (3.7) 20 (40.8)	10 (11.8) 37 (57.8)	3 (10.0) 8 (47.1)	
	学 部 期	単 位 ・ 進 級	2 (7.4) 1 (2.0)	0 0	1 (3.3) 0
	学 業	18 (66.7) 25 (51.0)	50 (58.8) 26 (40.6)	23 (76.7) 7 (41.2)	
卒 後 志 望 進 路	就 職	19 (70.4) 34 (69.4)	49 (57.7) 44 (68.8)	13 (43.3) 12 (70.6)	
各 群 の N	S. 54	27	85	30	
	S. 59	49	64	17	

付表4-3 — G7~G9 —

項 目	カテゴリー	G7 ~ G9			
		G7	G8	G7+G8	G9
サークル	参加	8 (72.7) 11 (61.1)	12 (50.0) 11 (68.8)	20 (57.1) 22 (64.7)	6 (28.6) 10 (52.6)
友人の質	きがねない人あり	9 (81.8) 10 (55.6)	12 (50.0) 11 (68.8)	21 (60.0) 21 (61.7)	9 (42.9) 9 (47.4)
	遊び仲間まで	0 2 (11.1)	2 (8.3) 2 (12.5)	2 (5.7) 4 (11.8)	1 (4.8) 4 (21.1)
	(親友+きがねない)	1 (9.1) 2 (11.1)	3 (12.5) 1 (6.3)	4 (11.4) 3 (8.8)	2 (9.5) 0
自我中核的準拠集団	サークル・寮での友人	1 (9.1) 3 (16.7)	0 7 (43.8)	1 (2.9) 10 (29.4)	0 2 (10.5)
	尊敬する人・師	1 (9.1) 0	1 (4.2) 0	2 (5.7) 0	0 3 (15.8)
そこでの中核的活動	人生観・世界観	1 (9.1) 4 (22.2)	1 (4.2) 0	2 (5.7) 4 (11.8)	3 (14.3) 5 (26.3)
	とくになし	4 (36.4) 3 (16.7)	1 (4.2) 0	5 (14.3) 3 (8.8)	1 (4.8) 2 (10.5)
やらざるをえなかったこと	なし	1 (9.1) 7 (38.9)	4 (16.7) 8 (50.0)	5 (14.3) 15 (44.1)	5 (23.8) 13 (68.4)
SA・Cの理由	大学の制度・実態	1 (9.1) 0	3 (12.5) 0	4 (11.4) 0	9 (42.9) 0
SAの改善策	環境調整	4 (36.4) 0	1 (4.2) 1 (6.3)	5 (14.3) 1 (2.9)	1 (4.8) 0
卒後志望進路	就職	63 (66.3) 13 (72.2)	52 (59.8) 14 (87.5)	41 (58.6) 27 (79.4)	11 (64.7) 11 (57.9)
各群のN	S. 54	11	24	35	21
	S. 59	18	16	34	19

正 誤 表

	頁 ; 行	誤	正
豊 嶋 論文	p.10 ; 13	理系教官の <u>準拠</u>	<u>への</u>
	p.14 ; 10	結果をそれを半面で	は
	最終行	公的な社会通念	適応
	p.15 ; 10	社会（文化）の非適応感	<u>への</u>
	p.17 ; 7	そのための知識普及	吸収
	; 26	不協和が_下	過
	p.18 ; 17	不得意感	本
清 論文	p.25 ; 16	自由記述式項目後者について	後者を削除
	p.38 ; 13	SA・B（中間水準）改善－	SA・B（中間水準）の改善－
	p.43 文献No5	<u>Yshino, H.</u>	<u>Yoshino,</u>
業 務 報 告	p.64 表4-2 脚注 最終行	カテゴリー	テ